



調査区全景（垂直 上が北）



倉賀野神社（倉賀野城西端）

調査地から倉賀野城方面を臨む（西から）



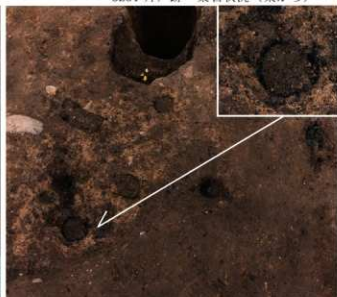
SE01 井戸跡 断面（東から）



SE01 井戸跡 集石状況（東から）



SK01 火葬施設 検出状況（南から）



SK44 火葬施設 炭化管状小穴群検出状況（南から）



SI03 竪穴建物跡 出土遺物

倉賀野薬師前遺跡

—建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2024

株式会社横尾材木店
高崎市教育委員会
株式会社 測研

例言

1. 本書は、建売分譲住宅建設工事に伴う倉賀野築師前遺跡(高崎市遺跡番号882)の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市倉賀野町字築師前806-1、806-2に所在する。
3. 発掘調査および整理作業は、株式会社横尾材木店、株式会社測研、高崎市教育委員会の三者協定に基づき、株式会社測研が株式会社横尾材木店の委託を受け、高崎市教育委員会の指導の下で行った。
4. 発掘調査整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、株式会社横尾材木店の負担による。
5. 調査面積は、445.9㎡である。
6. 調査の体制は、下記の通りである。
株式会社測研 調査及び整理担当 田中浩江
7. 発掘調査期間は令和5年11月6日～12月22日、整理等作業は令和6年1月5日～4月28日である。
8. 火山灰分析は、株式会社火山灰考古学研究所に依頼した。また、現場の遺構写真は田中が、空中写真撮影は株式会社測研が行った。
9. 出土遺物および測量原図・写真などの記録類と、自然科学分析報告書は高崎市教育委員会が保管している。
10. 本遺跡の発掘調査および報告書刊行に当たって、次の方々・機関からご教示とご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。(順不同・敬称略)
大西 雅広、堤 敏郎、早田 勉、日沖 剛史

凡例

1. 報告書挿図および文中引用文献については、各図および章末に引用参考文献として示してある。
2. 遺跡全体図におけるX・Y値は、世界測地系2011によるものであり、図中方位記号北は座標北を示す。
3. 断面図に付した数値(L=)は、標高値を示し、単位はすべてmである。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は各図に明記し、遺構図の単位はm、遺物図の単位はcmで表記した。
5. 土層注記の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖(1998年度版)』に基づき表記した。
6. 遺構には、次の略号を使用した。
S I：竪穴建物跡 S D：溝跡 S K：土坑 S E：井戸跡 S P：小穴 S A：櫓列
S B：掘立柱建物跡 P：遺構に伴う小穴
7. 本報告書で使用した火山噴火物の略号と年代は、以下のとおりである。
As・A 浅間A軽石：1783(天明3)年 As・B 浅間Bテフラ：1108(嘉承3・天仁元)年
Hr・FP 榛名二ツ岳伊香保テフラ：6世紀中葉

目次

例言・凡例・目次

第I章 調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の地理的・歴史的環境	1
第III章 調査の方法	4
第IV章 検出された遺構と遺物	4
第V章 自然科学分析	23
第VI章 総括	25
抄録	
写真図版	
奥付	

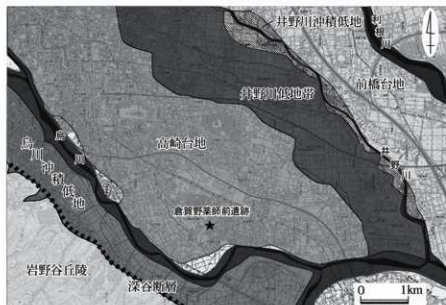
第Ⅰ章 調査に至る経緯

令和5年5月中旬、事業者から倉賀野町で建売住宅建築を計画しており、掘削工事に伴う埋蔵文化財の照会が、市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に先立ち協議が必要の旨、回答した。令和5年6月28日に文化財保護法第93条第1項の規定による届出と、埋蔵文化財試掘調査依頼書が提出され、令和5年7月24日に試掘確認調査を実施した。調査では、中近世の遺構を確認し、その保存協議を行ったが現状保存は困難と判断され、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。令和5年9月29日、事業者より民間調査組織選定の連絡があり、令和5年10月4日、事業者と株式会社測研で発掘調査の契約を締結した。遺跡名は「倉賀野薬師前遺跡」とし、調査の指導監督は市教委が実施することとなった。

第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

地理的環境 高崎市は、群馬県南西部に位置しており、その東南端にある倉賀野町は、榛名山麓の末端部分に当たる。本遺跡は、北方950mに国道17号、630mにJR湘南新宿ライン、南方920mに上越・北陸新幹線が通り、高崎駅まで約4kmの位置にある。県道121号からわずかに南に入ったところにあり、東300mに倉賀野神社、南西200mに小鶴巻古墳と300mに大鶴巻古墳、西方500mに浅間山古墳を始めとする多くの古墳が位置している。

前橋台地は、浅間山火山起源の更新世後期の前橋泥流堆積物と、烏川上流域から流下してきたとされる井野川泥流堆積物によって形成された地形である。この段丘面は、高位を高崎台地とも呼ばれ、低位の井野川低地面と

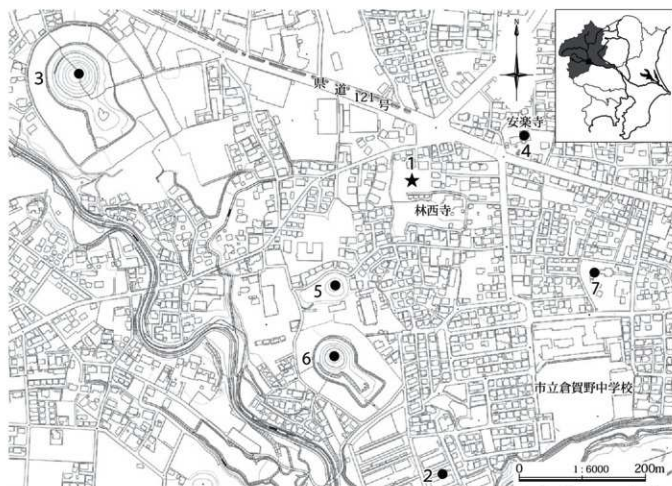


第1図 周辺地形図 (吉田英嗣・並原友生 2016 図2に加工)

大別される。井野川低地帯地形面の性格については、現段階では研究者の見解が異なり、結論に至っていないが、台地の表面は榛名山麓から流下する河川とその支流により運ばれた更新世の二次堆積物が混在して堆積する地点がある。本遺跡はこの高崎台地に位置し、遺構確認は、これらの泥流堆積層であり、急激な乾燥と脱色により遺構確認においては、迅速な判断と対処が必要とされている土質で、一部表面に摩耗した角閃石を含んでいる。なお、現表土および表土には自然科学分析に携

り、As-AとAs-Bが確認されている。調査区の標高は83.4～83.6mを測り、概ね平坦地形を呈する。
古代の歴史的環境 本調査では、古墳時代前期住居跡および中世の遺構が検出されているため、当該期の周辺遺跡を眺めながら、倉賀野薬師前遺跡を概観することとする。

集落としては、弥生時代後期～古墳時代初期において、井野川中流域に密集するとされ、古墳時代前期に井野川や烏川の下流域に分布を広げる。本遺跡で検出されたS103 竪穴建物跡は、まさにこの段階である。周辺遺跡には、倉賀野万福寺遺跡があり、住居跡が検出されており集落があったと考えられるが、出土土器の特徴より本遺跡と同時期と考えられ、当該地に於いては、比較的初期の段階で集落が営まれていた可能性を含む。



1. 倉賀野美師前遺跡 2. 倉賀野万福寺遺跡 3. 浅間山古墳 4. 安楽寺古墳
5. 小鶴巻古墳 6. 大鶴巻古墳 7. 倉賀野神社(倉賀野城)

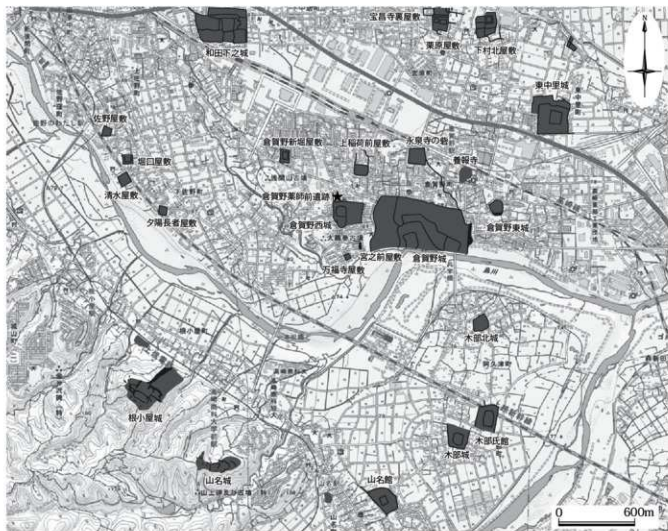
第2図 周辺の遺跡

前述したように、調査地点の周辺には多くの古墳が位置するが、これらの烏川左岸の倉賀野古墳群は、5C初頭前後の浅間山古墳(3)に始まり6C後半に隆盛期に至る。終末期古墳には、安楽寺古墳(4)が築造される。本調査区域は、これらの古墳に近至する。しかし、今回の調査では古墳に関連するような遺構の検出は無かった。

平安時代になり、烏川と井野川に挟まれた地域にも、古墳時代と同様の立地に集落が進出する。本遺跡では遺構は検出されなかったものの、古代須恵器片や武蔵型土師器裏片が遺構外より出土しており、奈良末期～平安時代の遺構が周辺に存在する可能性を指摘しておきたい。

中世の歴史的環境 中世になると、多くの城館や環濠屋敷が築かれる。箕輪城の支城である倉賀野城は、児玉党倉賀野氏により応永年間(1394～1428)に築城され、西辺は倉賀野神社、東辺は五貫堀川までの広範囲に渡り、烏川の崖線に面して位置し、戦国時代には既に水運の拠点として、兵員物資集積のために大城郭になっている。この倉賀野城の周囲にある倉賀野東城、倉賀野西城(以下、西城)、永泉寺の砦、上稲荷前遺跡の砦、そして養報寺を含めた5箇所が300mの等間隔で倉賀野城を取り囲むように位置していることから、倉賀野城の外堡として機能していたと考えられている。本調査区は、このうちの西城の北側に隣接しており、その一部としての可能性も想定し得る位置にある。西城は現在林西寺(1516開基)となっている墓地を含む寺の敷地より南側に、その郭を展開していたと考えられており、方形郭を主郭としているが、かねてより並郭式の可能性も指摘されている。本調査区域が、西城の一部となることで、更に並郭式の様相を濃くすることとなる。

武蔵児玉党の支流である秩父高俊が、倉賀野の地に館を構えたのが平安時代末期治承年間と伝えられ、高俊は建長5(1253)年に倉賀野神社社殿を造営したとされる。その後、応永年間に倉賀野光行が館を修繕し倉賀野城



第3図 倉賀野城・倉賀野西城縄張り図および調査の位置

(地理院地図_GSI Mapsに加工)

築城以降、河越夜戦による城主の討死、倉賀野十六騎衆に支えられ守られた城とされるが、内部分裂による城主交代や上杉氏、武田氏、後北条氏による配下時代を経て、天正18(1590)年の落城に至るまで、戦乱の世を駆け抜けた倉賀野城であった。そんな倉賀野の地に本調査区域は位置しており、倉賀野支城としての西城想定地に北接している。また、近世に於いても陸路交通の要所倉賀野宿として栄え、更に利根川溯航の終点烏川に接することで、宿場に川岸場を併設した水路の要所でもあった。当遺跡SK02より長崎貿易銭が出土しており、近世においても本遺跡は幕城としての機能を存続していたことが窺える。

参考文献

- 1983 大貫健『倉賀野万福寺遺跡 上越新幹線乗務員宿舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』山武考古学研究所
- 1994 関口修『倉賀野万福寺II遺跡発掘調査報告書』高崎市遺跡調査会
- 1996 高崎市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編3 中世1』高崎市
- 1996 長井正彦『双葉町1遺跡』山武考古学研究所
- 1988 群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』
- 2003 高崎市史編さん委員会『高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市
- 2004 吉田英嗣『浅間火山を起源とする泥流堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響』『地理学評論』77-8
- 2009 高林良人『駒貫・台新田遺跡一分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査』株式会社測研 高崎市教育委員会
- 2015 有山佳世『倉賀野長賀寺古墳』有限会社毛野考古学研究所
- 2016 吉田英嗣 笠原友生『関東平野北西部、高崎台地から井野川低地帯にかけての地下資源』『地学雑誌』125(5)
- 2019 高崎市教育委員会『倉賀野浅間山古墳—平成30年度 範囲確認調査報告書—』
- 2023 櫻井和成『栄崎東原遺跡3—倉庫建設工事に伴う発掘調査報告—』株式会社測研 高崎市教育委員会

第三章 調査の方法

基本的に、基本土層 1 (第 4 図) 第 IV 層トップ面を遺構確認面として、第 I 層現地表土、第 II 層旧耕作地の溶脱層、第 III 層の褐色土層をバケット 0.5 の重機により調査区東端より表土として除去し、その後人力により鋤簾および移植ゴテや三角鎌により、表土除去をさらにを行い、遺構の検出調査を行った。しかし、調査区域の一部は、基本層序が異なるため、以下に詳細を述べる。その際に、調査区域を測量工区 (以下、工区とする) とした 1 ~ 14 を用いて、位置を示す。工区 12 ~ 14 は、基本土層 2 に示すように、基本土層 1 の III 層を持たず、II 層直下を確認面として遺構の検出を行った。また、工区 1 ~ 4 においては、基本土層 3 に示すように、III 層直下に IV 層黒色土が厚く一様に水平堆積し、整地の様相を呈しており遺構の検出は無かった。それがいつのものか、自然地形によるものかの確認のために、工区 2 ~ 3 の東調査区域際と、3 ~ 5 の西調査区域際にサブトレンチを設定し、人力によりトレンチ調査を行った。その結果、III 層直下トップ面より 10cm ほど下位にて、SD09 の続きと東西に走る溝様の落込み SD05 を確認するに至った。

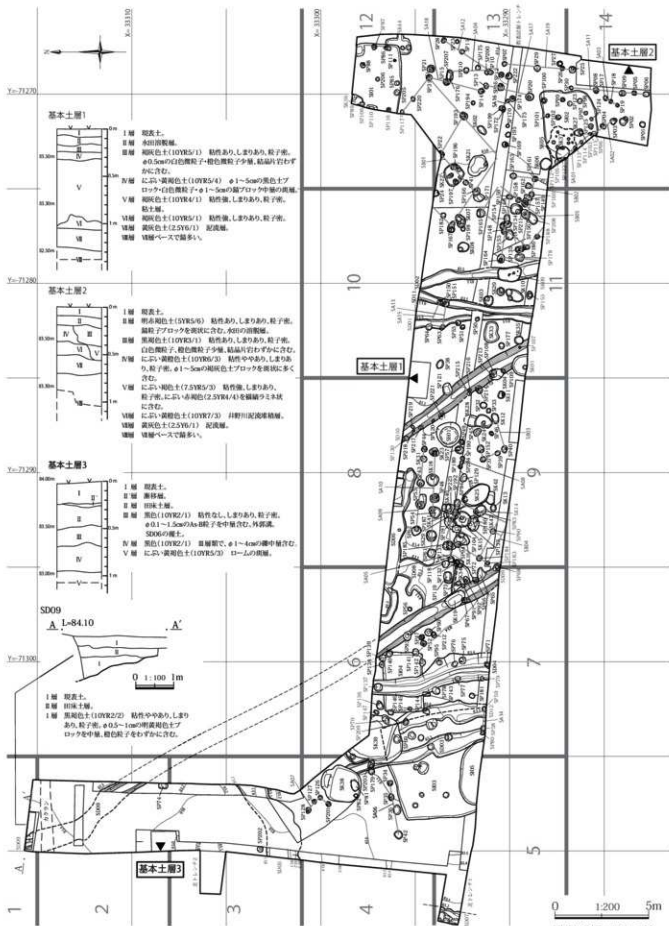
小穴については、柱痕の有無と位置を把握すべく、SP01 ~ 05 までを遺構の覆土傾向の情報を得るため、確認面より半載した結果、第 I 層が一様に柱痕の上に 3 ~ 5cm の厚さで、緩やかなレンズ状堆積を呈していることが判明した。よって、予め確認面より 3 ~ 5cm の第 I 層を除去する層序発掘を行い、柱痕跡プランが確認できた場合は、それを半載するようにセクションラインを設定し、掘り下げ調査を行った。

記録の方法については、遺構断面写真と完掘状況写真を基本に、フィルム一眼レフ 35mm カメラによりモノクロ写真を、デジタル一眼レフ 35mm カメラによりカラー写真を記録とした。また、随時必要と思われる調査過程の写真はいずれかのカメラにより記録を残した。測量については、基本的にトータルステーションを以て、遺構および遺物出土状況等を記録し、必要に応じて写真測量をオルソ処理して記録とした。調査の全体写真と俯瞰写真は、ドローンに搭載したフィルムカメラとデジタルカメラにより、モノクロとカラー写真の記録を残した。

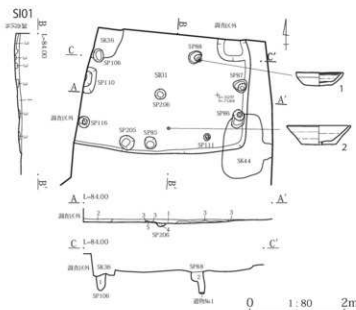
第四章 検出された遺構と遺物

今回検出された遺構は、竪穴建物跡 (S I) 5 棟、溝跡 (S D) 12 本、土坑 (S K) 40 基、井戸跡 (S E) 1 基、小穴 (S P) 223 基があり、小穴のうち柵列 (S A) としたものは 19 本、掘立柱建物跡 (S B) としたものは 5 棟であった。

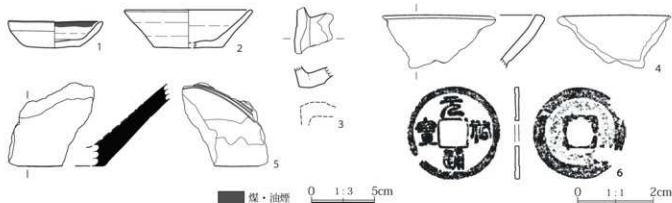
溝跡は SD05・06 を除く 10 本が概ね南北方向に走っており、SD08 については SD06 から溢れ出し SD09 に流れ込んだ自然流路の可能性がある。SD10 の底面に於いては、工具痕を顕著に残しており、当時の工事方法の資料として有効と考える。井戸跡は調査区のほぼ中央に位置するが、検出当初は自然石が一つ据えられ、その周りに大きな円形プランが検出されたものである。掘り下げ調査の結果、井戸を封じるために大量の自然石を投入した様相を呈し、集石を除去すると確認面下 0.88m (標高 82.63 m) で常に水面を保持する井戸となった。この水面よりほぼ 1 m 下位が井戸の底面である (標高 81.65m)。土坑の特徴としては、SK38・39 のような深く大きな方形プランで地下式土坑を想定しうるものと、小楕円形があり、その下位に根石や根固め石を有する深い小穴があるものが 3 例あった。これらは、先行する柱を抜いた窪地に墓坑を作った可能性を示唆しておきたい。また、SK01・44 の火葬施設があり、SK44 の上面には φ 5cm ほどの炭化管状小穴群が検出でき、施設構造の手掛かりの一つと注視しておきたい。小穴には、根石を据えたもの 21 基、根固め石を持つもの 19 基、両方を持つものは 1 基あった。SP57 と 64 は、腐食防止と考えられる表面炭化加工の痕跡が覆土に焼土として確認できた。竪穴建物跡では、SI03 が古墳時代前期の焼失住居跡で、復元可能な当該期の土器セットが床面より出土している。SI04 は壁に沿って柱穴が巡り、柱痕が長方形をしていることより、割材柱使用の可能性も想定しておきたい。



第4図 遺構配置図



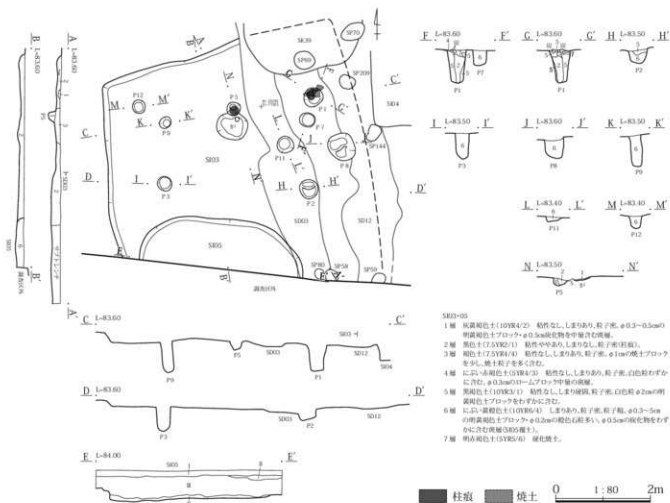
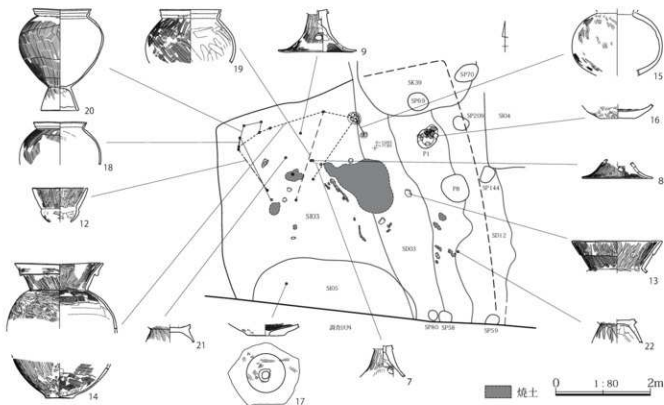
第5図 SI01・02 竪穴建物跡遺構図



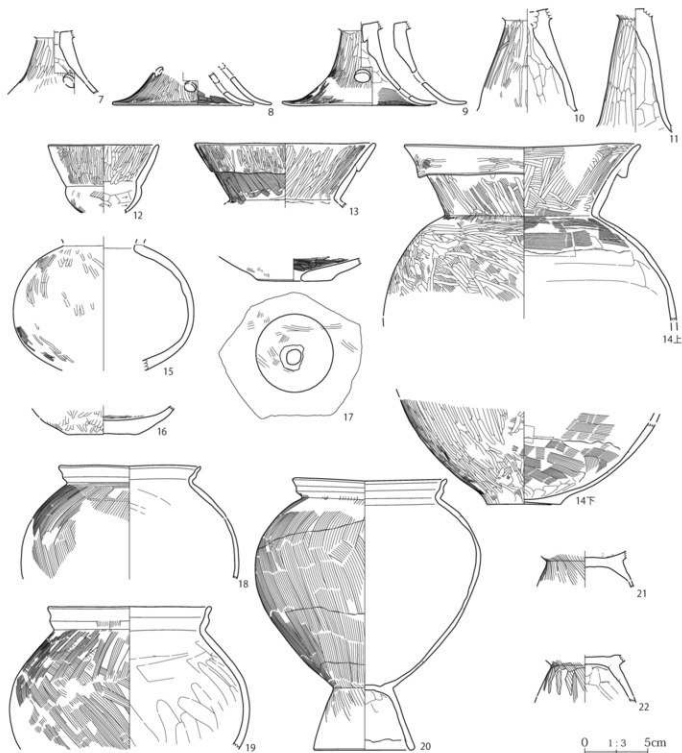
第6図 SI01・02 出土遺物図

第1表 出土遺物観察表

注記	棟号	種別・器種	法量 (cm)			部位	遺存度	成形・調整	色調・焼成	備考
			口径	底径	器高					
SI01 SP88 No.1	1	カワラケ 皿	7.5	4.3	2.2	口~底	完存	ロクロ成形 内外) ロクロ調整	にぶい・黄褐色・良好	即明使用編年 SP88 底面より 部位出土
SI01 No.5	2	カワラケ 皿	(10.2)	(5.5)	3.0	口~底	1/4	ロクロ成形 摩滅著しく調整不明	褐色・良好	
SI01 覆土	3	土師器 注口	—	—	(4.0)	注口部	部分	摩滅著しく調整不明	褐色・良好	
SI02 覆土床直	4	土師器 内口部	—	—	(4.2)	口~頸	部分	内外) 轆ナデ	褐灰色・堅固	
SI02 覆土床直	5	土師器 頸部 指跡	—	—	(6.6)	底部	部分	外) 轆ナデ 内) ナデ・斜位の非走する単比輪 で器口を衝す	明黄褐色・やや軟質	指口あり
SI01 床直	6	土師器 元光透置	縦 2.5	横 2.5	厚 0.14		完存		緑灰色	960 ~ 1279年
SI03 No.1・15	7	土師器 有孔器台	—	—	(5.1)	台部	3/4	輪轆み成形 外) 縦位へラ磨き 内) 台部上位: 縦位へラ削り (右~左) 中位: 横位刷毛ナデ	にぶい・褐色・良好	台部3孔 底部2孔
SI03 No.15・床直・覆土	8	土師器 有孔器台	—	11.3	(2.6)	台幹部	1/2	外) 縦位へラ磨き 内) 上位: 縦位へラ削り (右 ~左) 台部中位: 横位刷毛ナデ	にぶい・褐色・良好	台部部定 6孔
SI03 No.2・目区覆土	9	土師器 有孔器台	—	12.4	(6.7)	台部	1/2	外) 縦位刷毛目→縦位へラ磨き 内) 上位: 縦 位へラナデ・指面押突 腹部: 横位刷毛ナデ	にぶい・褐色・良好	台部3孔 底部2孔
SI03 床直	10	土師器 高坪	—	—	(8.2)	脚部	3/4	絞り成形 外) 斜位磨き目→縦位へラ磨き 内) 縦位指ナデ	にぶい・褐色・良好	
SI03 床直	11	土師器 高坪	—	—	(9.8)	脚部	3/4	絞り成形 外) 縦位へラ磨き 内) 縦位指ナデ	明赤褐色・良好	
SI03 No.19・29床直	12	土師器 用	(8.8)	—	(5.4)	口~脚部	1/2	外) 口脚部: 縦位へラ磨き 体部: 斜位磨き目 →斜位へラ磨き 内) 口脚部: 縦位へラ磨き 体部: 縦位へラ削り (左~右)	明黄褐色・良好	
SI03 No.7・P7・床直	13	土師器 器	(14.4)	—	(5.2)	口脚部	3/4	外) 斜位刷毛目→縦位へラ磨き 内) 斜位刷毛 目→縦位へラ磨き	にぶい・褐色・良好	



第7図 SI03・05 竪穴建物跡遺物分布図・遺構図



第8図 SI03 出土物図

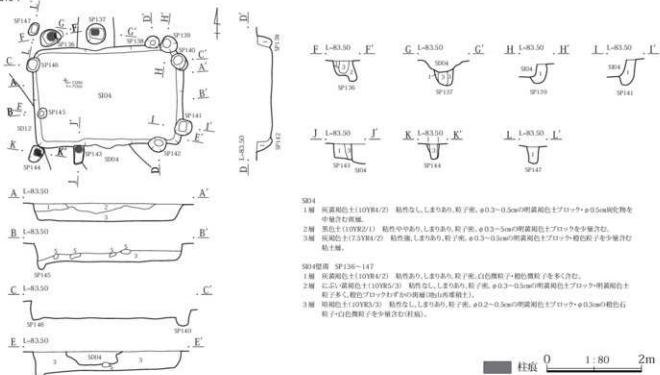
第2表 出土物観察表

法相は国七整合計画 < > 現存品 () 推定品

注記	種別%	種別・器種	法相 (cm)		部位	遺存度	成形・調整	色調・焼成	備考	
			口径	底径						器高
SI03 No. 3・6・24 床直・ 27 床直・30 床直・ 31・床直	14	土師器 皿	7.1	5.9	(28.5)	口~底部	3/4	外) 口縁部: 横位刷毛目→斜位へら磨き 胴上位: 横斜位へら磨き 内) 口縁部: 横位刷毛目→横 縦位へら磨き 胴部: 横位へら磨き 胴部上位: 横位刷毛目 胴部中位: へらナデ	灰褐色・良好	国土復元
SI03 No. 3・4・1 区層土	15	土師器 皿	—	—	(10.0)	胴~体部	3/4	外) 斜位刷毛目 (下→上) 内) ナデ	にぶい赤褐色・良好	
SI03 P1	16	土師器 皿	—	5.7	(2.3)	底部	3/4	外) 斜位へら磨き 内) 斜位へら磨き	浅黄褐色・良好	
SI03 No. 20	17	土師器 皿	—	6.1	(2.0)	底部	3/4	外) 摩滅著しいが横き目 内) 刷毛目 (上→下)	明赤褐色・良好	坊成後内外面より 穿孔
SI03 No. 28 床直・29 床直・ 30 床直	18	土師器 台付甕	11.3	—	(9.0)	口~胴部	3/4	外) 斜位刷毛目 胴部にはわずかな横線 内) 斜 位へらナデ	にぶい褐色・良好	

注記	神内No.	種別・跡種	法量 (m)			部位	遺存度	成形・調整	色調・焼成	備考
			口径	底径	器高					
SI03 No.6・14・床直 ・置区燻土	19	土師器 台付甕	13.0	—	(11.3)	口～胴部	3/4	外) 横位へラ削り(右→左)→斜位刷毛目(上→下) 内) 横位へラナデ→刷位ナデ	褐色・良好	
SI03 No.13・25 床直・ 26 床直・27 床直・ 28 床直・床直	20	土師器 台付甕	12.3	8.0	21.6	口～台部	3/4	外) 斜位刷毛目 内) 摩滅著しく調整不明	にぶい黄褐色・良好	
SI03 No.21	21	土師器 台付甕	—	—	(2.9)	台部	1/4	外) 斜位刷毛目 内) 刷位へラナデ	にぶい褐色・良好	
SI03 No.10	22	土師器 台付甕	—	—	(3.8)	台部	1/3	外) 斜位刷毛目 内) 中位:へラナデ 胴部: へラナデ	にぶい褐色・良好	
SE01 No.3	23	須恵瓦土師器 甕	—	(10.4)	(4.2)	底部	1/4	摩滅著しく調整不明	灰黄褐色・軟質	

SI04



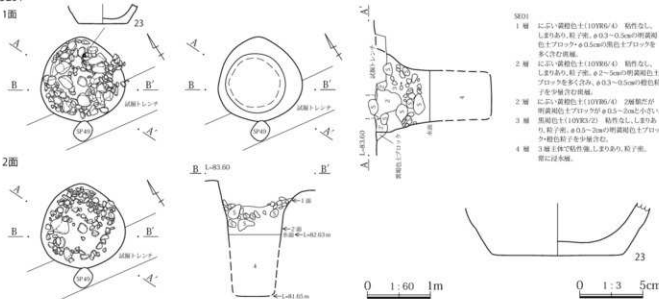
SI04

- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘着なし、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・ $\phi 0.5\text{mm}$ 褐色土を多く含む肌層。
 - 2層 黒色土(10YR2/1) 粘着ややあり、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロックを少量含む。
 - 3層 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘着性、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・褐色粒子を少量含む粘土層。
- SI03程度 SP136～147
- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘着あり、しまりあり、粒子径、白色微粒子・褐色微粒子を多く含む。
 - 2層 にぶい褐色土(10YR5/2) 粘着なし、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・明褐色土・粒子を多く含む肌層(地内再構成土)。
 - 3層 明褐色土(10YR3/2) 粘着なし、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.2\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・ $\phi 0.3\text{mm}$ の褐色土・粒子・白色微粒子を少量含む(柱底)。



第9図 SI04 竪穴建物跡遺構図

SE01



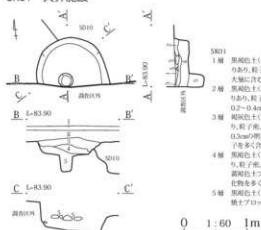
SE01

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 粘着なし、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・ $\phi 0.5\text{mm}$ の褐色土ブロックを多く含む肌層。
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 2層部分が明褐色土ブロックを $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の小粒子・褐色土(10YR3/2) 粘着なし、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.5\sim 2\text{mm}$ の明褐色土ブロック・褐色粒子を少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘着性、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・褐色土を少量含む。
- 4層 3層と併せて粘着性、しまりあり、粒子径、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック・褐色土を少量含む。



第10図 SE01 井戸跡遺構図・出土遺物図

SK01 火葬施設



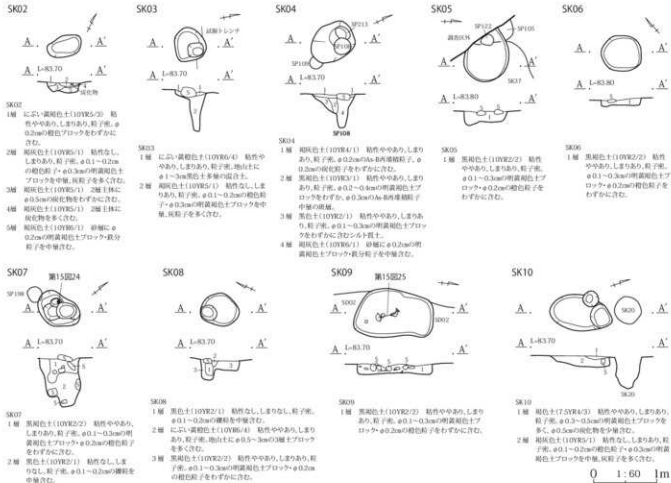
SK44 火葬施設



第11図 SK01・44 遺構図

火葬施設 SK01とSK44からは火葬骨と炭化材が多く出土しており、火葬施設とした。他遺構との重複関係よりSK01の方が古く、ともに調査区域外に遺構が延びている。SK44はSIO1に破壊されての底部のみの遺存ではあるものの、調査区域断面上に確認できた火焼部形状より、関東地方に多いとされる平面形T字を呈するタイプと考えられる。深さ1mほどの遺構検出例（川口市辻字宮地第1遺跡）もあり、火葬施設構造は堅坑を呈する可能性がある。そのような中でのSK44確認面における、径10cm程の炭化管状小穴群は施設構造の手掛かりともなろう。

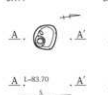
土坑



第12図 土坑 (SK02～10) 遺構図

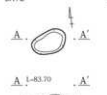
土坑

SK11



SK11 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 近い褐色土(10YR7/3) 粘性あり,しまりあり,粘子層, 地山層土粒との混合土。

SK12



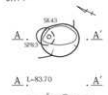
SK12 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.2 \sim 0.4\text{m}$ のAs非均質粘子層を多く, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロックを中層含む。

SK13



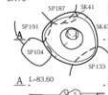
SK13 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中やあり, 粘子層, $\phi 0.5 \sim 2\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 1 \sim 3\text{cm}$ の褐色粒を多く含む硬層。

SK14



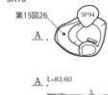
SK14 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK15



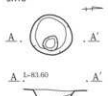
SK15 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK16



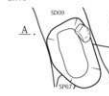
SK16 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 近い褐色土(10YR7/3) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, 地山層土粒との混合土。

SK18



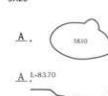
SK18 1層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5 \sim 3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 1\text{m}$ 褐色粒子を中層含む硬層。
2層 近い褐色土(10YR7/3) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, 地山層土粒との混合土。

SK19



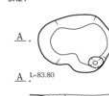
SK19 1層 褐色土(10YR4/4) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5 \sim 1\text{m}$ の明黄褐色土ブロックを多く含む硬層。

SK20



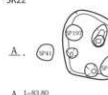
SK20 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK21



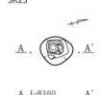
SK21 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, 明黄褐色土ブロックをわずかに含む。

SK22



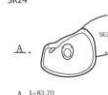
SK22 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK23



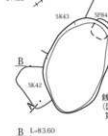
SK23 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK24



SK24 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK25



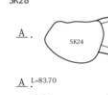
SK25 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性なし,しまり中やあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロックを少量, $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。
2層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.2\text{m}$ の明黄褐色土粒子をわずかに含む。
3層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の褐色土 $\phi 0.1 \sim 0.2\text{m}$ の褐色粒を $\phi 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロックを中層含む。

SK27



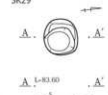
SK27 1層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.3 \sim 4\text{m}$ の明黄褐色土ブロック中層 $\phi 0.2\text{m}$ の白色粒子を中層含む。

SK28



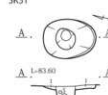
SK28 1層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, 白色粒子をわずかに含む, $\phi 0.3 \sim 1\text{m}$ の明黄褐色土ブロックの多い硬層。

SK29



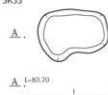
SK29 1層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5 \sim 3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 1\text{m}$ 褐色粒子を中層含む硬層。
2層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK31



SK31 1層 黒褐色土(10YR4/2) 粘性なし,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.3 \sim 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.5\text{m}$ の褐色粒を中層含む硬層。
2層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.5\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

SK33

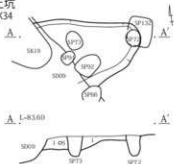


SK33 1層 黒褐色土(10YR2/2) 粘性中やあり,しまりあり, 粘子層, $\phi 0.1 \sim 0.3\text{m}$ の明黄褐色土ブロック $\phi 0.2\text{m}$ の褐色粒をわずかに含む。

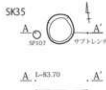
0 1:60 1m

第13図 土坑 (SK11 ~ 16・18 ~ 25・27 ~ 29・31・33) 遺構図

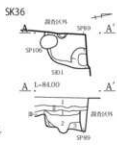
土坑
SK34



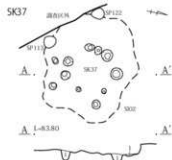
SK34
1層 灰褐色土(10YR5/3) 粘質中砂あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の明褐色土ブロックと $\phi 0.5\sim 1\text{mm}$ の明褐色土ブロックを多く含む。 $\phi 0.3\text{mm}$ の微細粘子土を少量含む。



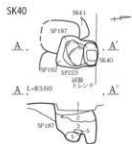
SK35
1層 灰褐色土(10YR3/1) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.5\sim 1\text{mm}$ の明褐色土ブロックと微細粘子土を中量含む。



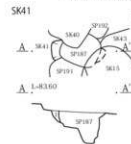
SK36
1層 灰褐色土(10YR3/1) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.2\sim 0.4\text{mm}$ の白色粘子土を多く、 $\phi 0.2\sim 1\text{mm}$ の褐色粘子土を少量含む。
2層 灰色土(10YR2/1) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロックを中量含む。白色粘子土を少量含む。
3層 灰褐色土(10YR4/2) 粘質中砂あり、しまりあり、粘子泥。層厚 $0.3\sim 0.4\text{m}$ の明褐色土ブロックを多く含む粘質層。



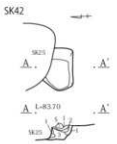
SK37
1層 灰色土(10YR2/1) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.2\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロックをわずかに含む粘質層が1層。



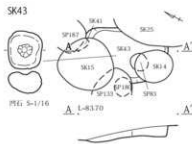
SK40
1層 灰褐色土(10YR4/2) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.2$ の褐色粘子土を少量含む。
2層 赤い-黄褐色土(10YR5/3) 粘質中砂あり、しまりあり、粘子泥、 $0.3\sim 1\text{mm}$ の明褐色土粘子土-褐色粘子土を多く含む粘質層。
3層 灰褐色土(10YR3/1) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.2\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土をわずかに含む。



SK41
1層 灰褐色土(10YR4/2) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、白色粘子土-褐色粘子土を少量含む。



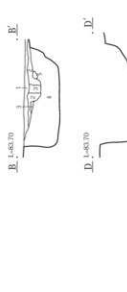
SK42
1層 灰褐色土(10YR4/2) 粘質中砂あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土をわずかに含む。
2層 赤い-黄褐色土(10YR5/3) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を多く含む。 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む。
3層 灰褐色土(10YR3/2) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、粘子土を多く含む。 $\phi 0.3\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む。



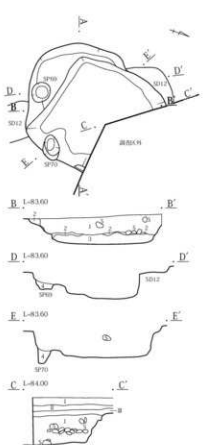
SK43
1層 灰褐色土(10YR3/1) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、白色粘子土-褐色粘子土を少量含む。



SK38
1層 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、白色粘子土を多く、 $\phi 0.5\text{mm}$ の明褐色土粘子土を少量含む。
2層 灰褐色土(7.5YR4/2) 1層と同じ色相を含まない。
3層 赤い-褐色土(7.5YR5/3) 粘質なし、しまりあり、粘子泥、 $\phi 1\text{mm}$ の明褐色土ブロックを多く含む。
4層 灰色土(7.5YR2/1) 粘質中砂あり、しまりなし、粘子泥、 $\phi 0.3\text{mm}$ の明褐色土ブロックをわずかに含む。
5層 灰色土(10YR5/6) 粘質中砂あり、しまりなし、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む。



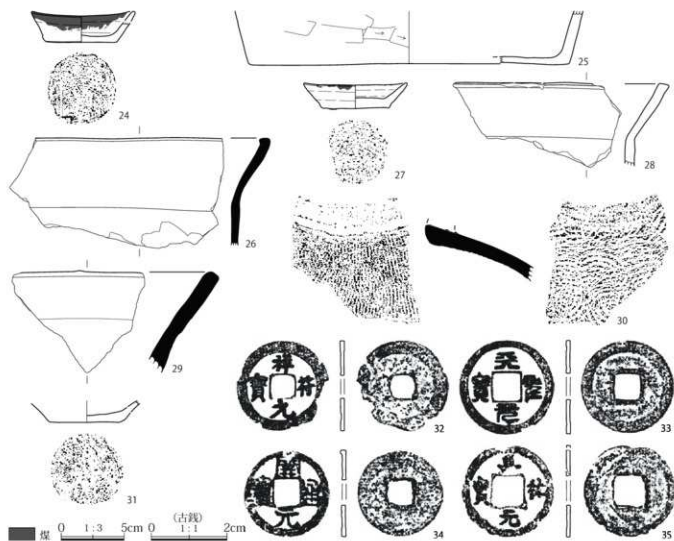
SK39
1層 灰色土(7.5YR2/1) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む。
2層 赤い-褐色土(7.5YR5/3) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を多く含む。
3層 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘質層、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む粘質層。
4層 灰褐色土(10YR2/3) 粘質あり、しまりあり、粘子泥、 $\phi 0.3\sim 1\text{mm}$ の明褐色土ブロック粘子土を少量含む。



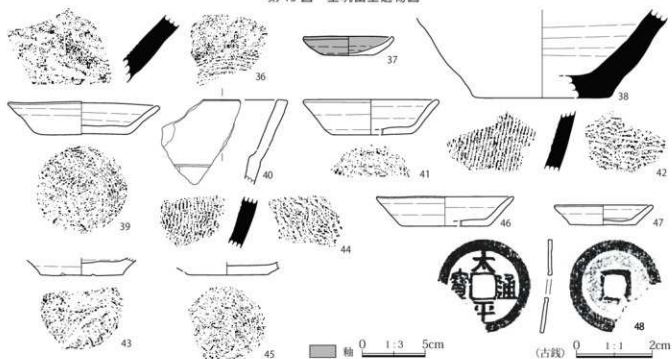
0 1:60 1m

0 1:80 2m

第14図 土坑 (SK34～43) 遺構図

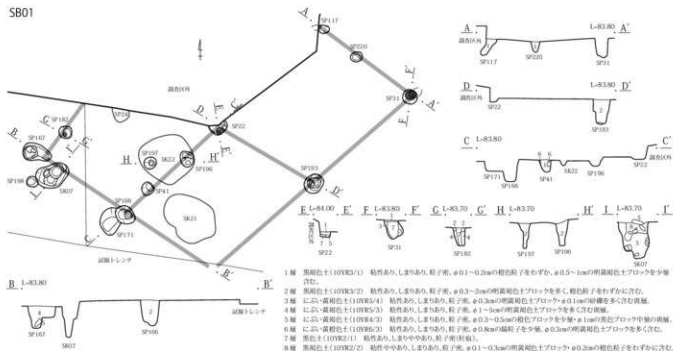


第15圖 土坑出土遺物圖

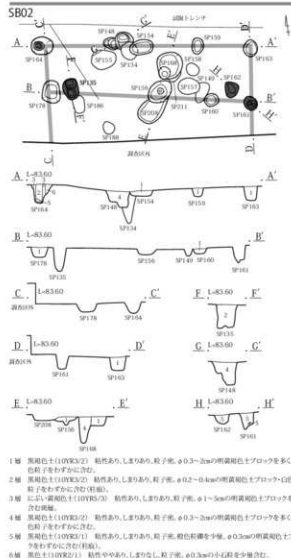


第16圖 溝跡・小穴・遺構外出土遺物圖

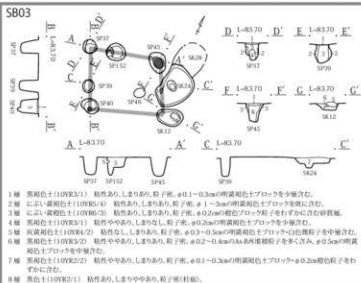
SB01



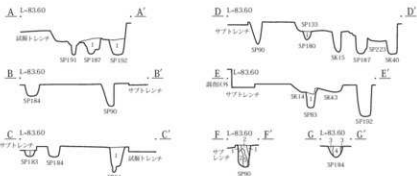
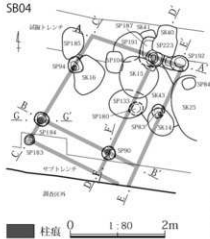
SB02



SB03



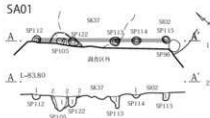
SB04



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層,φ0.5cmの酸化粒・φ0.1~0.2cmの褐色粘土・φ0.3cmの明褐色土ブロックを中量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) φ0.2~0.3cmの明褐色土ブロック・φ0.2cmの褐色粘土を層へんに混在させる。
- 3層 灰黄色土(10YR6/2) 無物混をわずかに含む,φ0.3~0.5cmの明褐色土ブロックを中量含む。
- 4層 黒色土(10YR2/1) 粘性あり,しまりあり,粘土層,褐色の腐葉土層,φ0.3cmの明褐色土ブロックをわずかに含む(見取)。
- 5層 黒色土(10YR2/1) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層,明褐色土粒子と褐色粘土をわずかに含む(見取)。

第18図 掘立柱建物跡 (SB04) 遺構図

SA01



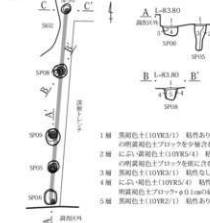
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~0.5cmの明褐色土ブロック・φ0.3cmの褐色粘土を少量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層,φ0.3~0.5cmの褐色土ブロックを少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層(見取)。
- 4層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.5~1cmの明褐色土ブロックを中量に含む。

SA03



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.1~0.3cmの明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~0.5cmの褐色土ブロックを少量・φ1cmの褐色土ブロックを少量含む。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層。

SA11



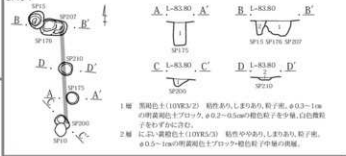
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.1~0.3cmの明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ1~3cmの明褐色土ブロックを混在させる。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層(見取)。
- 4層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3cmの明褐色土ブロック・φ0.1cmの腐葉土を少量含む(見取)。
- 5層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層(見取)。

SA02



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.1~0.3cmの明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~0.5cmの褐色土ブロックを少量・φ1cmの褐色土ブロックを少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層(見取)。
- 4層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.5~1cmの明褐色土ブロックを中量に含む。

SA04



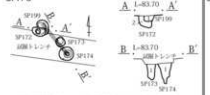
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~1cmの明褐色土ブロック,φ0.2~0.5cmの褐色粘土を少量,白色粘土粒子をわずかに含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層,φ0.3~1cmの明褐色土ブロック・褐色粘土を少量含む。

SA12



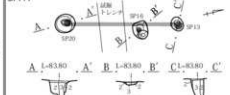
- 1層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3cmの明褐色土ブロック・φ0.1cmの腐葉土を少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘性中やあり,しまりあり,粘土層(見取)。
- 4層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~1cmの明褐色土ブロック・φ0.2~0.5cmの褐色粘土を少量・白色粘土粒子をわずかに含む。

SA16



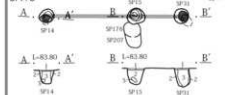
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~1cmの明褐色土ブロック・φ0.2~0.5cmの褐色粘土を少量,白色粘土粒子をわずかに含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3~1cmの明褐色土ブロック・φ0.2~0.5cmの褐色粘土を少量,白色粘土粒子をわずかに含む。

SA17



- 1層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3cmの明褐色土ブロック・φ0.1cmの腐葉土を少量含む(見取)。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘性あり,しまりあり,粘土層(見取)。

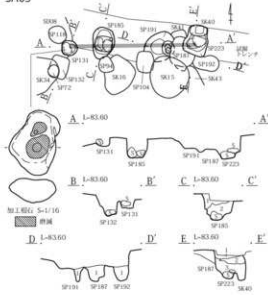
SA18



- 1層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層。
- 2層 濃い黄褐色土(10YR5/4) 粘性あり,しまりあり,粘土層,φ0.3cmの明褐色土ブロック・φ0.1cmの腐葉土を少量含む(見取)。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 粘性あり,しまりあり,粘土層(見取)。

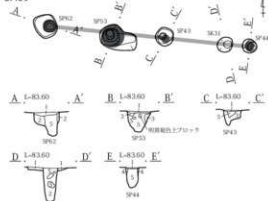
第19図 欄列 (SA01~04・11・12・16~18) 遺構図

SA05



- 1層 灰褐色土(10YR4/2) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロックを多数含む。
- 2層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, 粗粒の炭多量, $\phi 0.3m$ の明褐色土ブロックをわずかに含む。
- 3層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.2 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロック-粗粒炭をわずかに含む。

SA09



- 1層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.1 \sim 0.3m$ の明褐色土ブロックを多数含む。
- 2層 近い明褐色土(10YR4/3) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の褐色ブロックを少量- $\phi 1m$ の褐色ブロック中量。
- 3層 近い明褐色土(7.5YR5/4) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.5 \sim 1m$ の明褐色土ブロックを多数含む。
- 4層 近い明褐色土(10YR3/4) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3m$ の明褐色土ブロック- $\phi 0.1m$ の炭を多数含む。
- 5層 灰色土(10YR2/1) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土(軽微)。

SA15



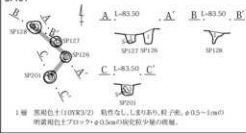
- 1層 灰褐色土(5YR3/1) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.5 \sim 4m$ の明褐色土ブロック-粗粒炭を多数含む。
- 2層 近い褐色土(5YR5/2) 粗粒の炭土ブロック。
- 3層 灰褐色土(5YR3/1) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土, 1層土層が $\phi 3.5m$ の焼土ブロックを少量, 焼土中量を含む。
- 4層 灰褐色土(10YR4/2) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロック-粗粒炭, 粘土中量を含む。
- 5層 灰色土(10YR2/1) 黏性あり, しまりややあり, 粘土, $\phi 0.2m$ の明褐色土ブロックをわずかに含む(軽微)。

SA06



- 1層 近い明褐色土(10YR4/4) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.1 \sim 0.3m$ の明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 灰褐色土(10YR3/2) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.2 \sim 1m$ の褐色ブロック-粗粒炭を中量含む(軽微)。
- 3層 土層上部に粗粒炭-褐色粘土 $\phi 0.1 \sim 0.2m$ を少量含む(軽微) (粗粒炭が軽微)。

SA07



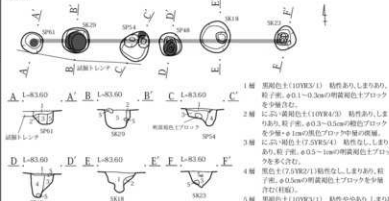
- 1層 灰褐色土(10YR3/2) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.5 \sim 1m$ の明褐色土ブロック- $\phi 0.5m$ の粗粒炭を少量含む。

SA08



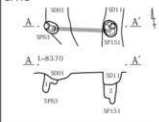
- 1層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3m$ の明褐色土ブロックを多数含む。

SA10



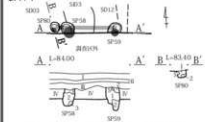
- 1層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.1 \sim 0.3m$ の明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 近い明褐色土(10YR4/3) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の褐色ブロックを少量- $\phi 1m$ の褐色ブロック中量。
- 3層 近い明褐色土(7.5YR5/4) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.5 \sim 1m$ の明褐色土ブロックを多数含む。
- 4層 灰色土(7.5YR5/4) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.5m$ の明褐色土ブロックを少量含む(軽微)。
- 5層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土(軽微)。

SA13



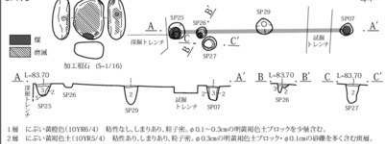
- 1層 灰褐色土(10YR3/1) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.1 \sim 0.3m$ の明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 灰褐色土(10YR4/2) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロック-粗粒炭を中量含む。

SA14



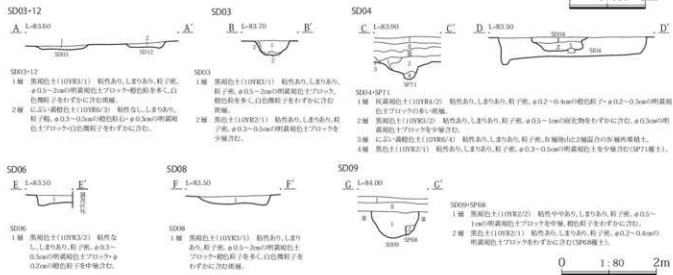
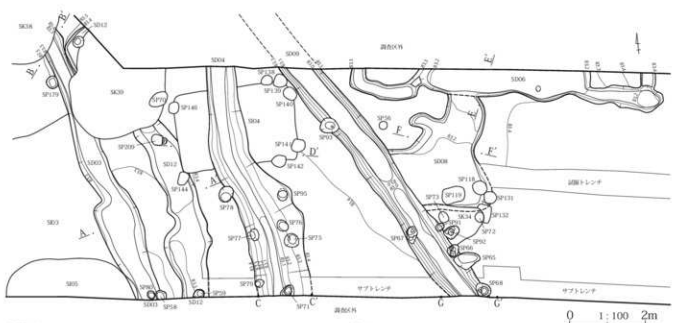
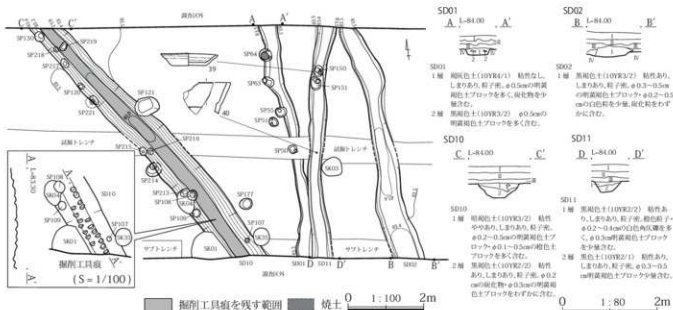
- 1層 灰褐色土(10YR3/2) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.2 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロックを多数含む。
- 2層 明褐色土(10YR3/2) 黏性ややあり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3m$ の粗粒炭- $\phi 0.2m$ の明褐色土ブロック- $\phi 0.2m$ の褐色ブロック中量(軽微)。
- 3層 近い明褐色土(10YR4/4) 2層- $\phi 0.3 \sim 0.5m$ の明褐色土ブロックを多数含む。

SA19



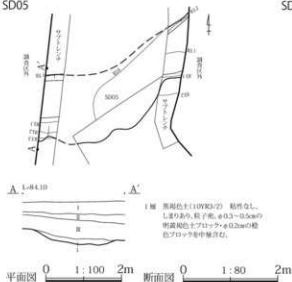
- 1層 近い明褐色土(10YR4/4) 黏性なし, しまりあり, 粘土, $\phi 0.1 \sim 0.3m$ の明褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 近い明褐色土(10YR3/4) 黏性あり, しまりあり, 粘土, $\phi 0.3m$ の明褐色土ブロック- $\phi 0.1m$ の粗粒炭を多数含む(軽微)。
- 3層 灰色土(10YR2/1) 黏性あり, しまりややあり, 粘土(軽微)。

第20図 柵列 (SA05 ~ 10・13 ~ 15・19) 遺構図

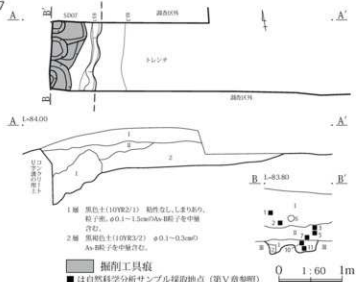


第21図 溝跡(SD01~04・06・08~12)遺構図

SD05



SD07



第22図 溝跡(SD05・07)遺構図

SD07 先に触れたように(第2章参照)、本調査区は倉賀野西城の一部の可能性を有しているわけであるが、西端に接する現用水路至近に設定したトレンチ調査の結果、盛土された現地表土より84cm下位で、溝跡遺構SD07の検出に至った。確認面より42cm下位で溝の底面に至り、基底部には掘削痕と考えられる径36~75cmの半円形の工具痕が確認できた。本遺構の所産期については、覆土における火山灰分析を行った結果(第V章参照)、As-Bより上位でAs-Aより下位であることより、所産期を中世に求められ、倉賀野西城外郭の可能性が高い。

第3表 出土遺物観察表

注記	層別%	種別・器種	法量(cm)			部位	遺存度	成形・調整	色調・構成	備考
			口径	底径	高さ					
SK07 側面	24	カワラケ 皿	(8.3)	5.6	2.5	口~底	完存	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整		透明 使用痕 底位相図有石代川
SK09 覆土	25	土師器 内耳皿	—	25.4	(4.3)	底部	1/2	外) 斜位へラズリ 内) 磨面著しく調整不明		武蔵型
SK16 №1	26	須恵器 皿	—	(8.8)	口~頸	部分	内外) ヨコナデ			灰色・やや軟質
SK25 覆土	27	カワラケ 皿	8.2	5.2	2.1	口~底	完存	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整		にふい粉・良好
SK27 覆土	28	土師器 皿	—	(6.8)	口~頸	1/3	内外) ヨコナデ			灰白色・良好
SK32 瓦輪TR	29	須恵器 皿	—	(8.1)	口~頸	部分	内外) ヨコナデ			灰白色・やや軟質
SK43 覆土	30	須恵器 甕	—	(4.4)	口~頸部	部分	外) 磨面著しく日焼 内) 青海流文			灰色・堅固
SK43 覆土	31	カワラケ 皿	—	5.6	(1.7)	底部	完存	ロククロ成形 底部回転糸切		にふい粉色・やや軟質
SK02 №1	32	須恵器 瓦	縦2.4	横2.4	厚0.11	完存				灰オリーブ色 長崎貿易局 1659年
SK25 №1	33	須恵器 瓦	縦2.5	横2.5	厚0.13	完存				灰オリーブ色 960~1279年
SK25 №1	34	須恵器 瓦	縦2.3	横2.3	厚0.13	完存				灰オリーブ色 621~921年
SK25 №1	35	須恵器 瓦	縦2.4	横2.4	厚0.1	完存				960~1279 北本瓦 1056~1063年
SD02 覆土	36	須恵器 鉢	—	—	(5.4)	胴部	部分	外) ヨコナデ 内) ナデ・磨面器具に磨る横位の磨り改修で節目を撫す		外) 灰黄褐色 内) 超灰色 節目あり
SD05 覆土	37	陶磁器 皿	(7.2)	4.0	1.5	口~底	1/2	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整の後に内面に三稜溝色(2.2YR6/1)の触れを遺輪		断面) 浅灰色
SD10 覆土	38	須恵器 鉢	—	(10.6)	(7.0)	底部	1/3	ロククロ成形 外) ナデ 内) ロククロ調整 ロククロ痕を顕著に残す。節目を持たない		灰色・やや軟質 節目なし
SD11 №1	39	カワラケ 皿	12.0	7.4	2.6	口~底	完存	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整		にふい粉色・やや軟質
SD11 №3	40	土師器 内耳皿	—	—	(6.7)	口~頸	部分	内外) ヨコナデ		にふい粉色・やや軟質 外面磨付着
SP49 №1	41	カワラケ 皿	(10.8)	(6.3)	2.8	底部	1/2	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整 磨面		灰褐色・良好
SP54 №1	42	須恵器 甕	—	—	(4.7)	胴部	部分	外) 磨面著しく日焼 内) 青海流文		外) 灰褐色 内) 超灰色・堅固
SP110 覆土上位	43	カワラケ 皿	—	6.6	(1.4)	底部	1/2	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整		にふい粉色・良好 透明 使用痕
SP133 №1	44	須恵器 甕	—	—	(4.1)	胴部	部分	外) 磨面著しく日焼 内) 青海流文		灰色・堅固
SP203 覆土上位	45	カワラケ 皿	—	6.4	(1.0)	底部	3/4	ロククロ成形 底部回転糸切 内外) ロククロ調整		灰黄褐色・良好 透明 使用痕
遺構外	46	カワラケ 皿	(10.8)	(6.8)	2.4	口~底	1/4	ロククロ成形		にふい粉色・やや軟質 層 TOP 面
遺構外	47	カワラケ 皿	(7.8)	5.2	1.6	口~底	1/4	ロククロ成形		にふい粉色・やや軟質 層 TOP 面
SP84 48	須恵 太平唐瓦	縦2.5	横2.5	厚0.1	3/4					灰白色 976年 北本瓦

第4表 遺構計測表 (SI・SE・SK)

測量工区	遺構種	遺構No	法量 (cm)			主軸方位	所属時期	備考
			長軸	短軸	深さ			
12	SI	01	(362.6)	(258.3)	17.0	N-4°-E	Ⅱ期	元祐遺構
13・14	SI	02	(399.3)	285.2	7.0	N-5°-W	Ⅱ期	古瓦 判別不可
4・7	SI	03	(382.4)	(349.7)	26.0	N-7°-W	Ⅰ期	
4・6	SI	04	316.2	208.6	40.0	N-3°-W	Ⅱ期	
5・7	SI	05	(347.5)	(403)	17.0	N-7°-E	Ⅱ期	
9	SE	01	132.9	131.0	186.0	N-39°-E	B-IV期	
11	SK	01	113.0	(78.7)	48.0	N-90°-E	Ⅱ期	火葬施設
13	SK	02	55.6	33.3	18.0	N-49°-E	Ⅱ期	洋瓦元置
11	SK	03	53.4	51.8	71.0	N-54°-E	Ⅱ期	
9・11	SK	04	73.8	60.1	33.0	N-23°-W	Ⅱ期	
13	SK	05	(73.0)	73.5	18.0	N-81°-E	Ⅱ期	
13	SK	06	63.4	55.8	12.0	N-47°-W	Ⅱ期	
11	SK	07	71.6	48.0	76.0	N-66°-E	Ⅱ期	
10	SK	08	56.4	54.4	36.0	N-50°-W	Ⅱ期	
11	SK	09	124.9	76.7	16.0	N-0°-E	Ⅱ期	
11	SK	10	100.4	57.4	26.0	N-31°-E	Ⅱ期	
9	SK	11	38.6	35.1	13.0	N-73°-W	Ⅱ期	墓壇
9	SK	11下位柱穴	(16.4)	(15.4)	25.0	N-70°-W	Ⅱ期	
9 SB03	SK	12	56.1	35.9	13.0	N-70°-E	Ⅱ期	墓壇 欄柱
	SK	12内柱穴						
9	SK	13	38.3	30.3	22.0	N-86°-W	Ⅱ期	
9	SK	14	61.0	51.2	23.0	N-39°-W	Ⅱ期	
9	SK	15	85.7	84.2	64.0	N-46°-W	Ⅱ期	
9	SK	16	76.7	63.9	19.0	N-33°-E	Ⅱ期	
欠番	SK	17						
8 SA10	SK	18	66.4	62.5	45.0	N-22°-E	Ⅱ期	
7	SK	19	109.7	70.3	42.0	N-30°-W	Ⅱ期	
9	SK	20	41.2	40.9	53.0	N-57°-E	Ⅱ期	
13	SK	21	122.7	89.8	34.0	N-56°-W	Ⅱ期	
13	SK	22	103.7	100.5	36.0	N-58°-E	Ⅱ期	
8 SA10	SK	23	52.1	45.2	65.0	N-23°-E	Ⅱ期	
9 SB03	SK	24	84.5	71.4	21.0	N-31°-E	Ⅱ期	
9	SK	25	160.6	96.4	30.0	N-37°-W	Ⅱ期	瓦5枚
欠番	SK	26						
14	SK	27	43.0	37.4	14.0	N-14°-W	Ⅱ期	
9	SK	28	(35.4)	60.4	13.0	N-11°-E	Ⅱ期	
8 SA10	SK	29	57.2	53.2	41.0	N-90°-E	Ⅱ期	
欠番	SK	30						
8 SA09	SK	31	32.5	30.9	74.0	N-18°-E	Ⅱ期	
欠番	SK	32						
11	SK	33	110.2	79.9	6.0	N-90°-E	Ⅱ期	
9	SK	34	(139.2)	113.8	24.0	N-77°-E	Ⅱ期	
11	SK	35	47.0	43.3	20.0	N-21°-E	Ⅱ期	
12	SK	36	(65.3)	(54.1)	32.0	N-18°-E	Ⅱ期	
13・14	SK	37	176.6	(160.0)	31.0	N-64°-E	Ⅱ期	
4	SK	38	214.0	189.7	76.0	N-15°-E	Ⅱ期	
4・6	SK	39	(291.3)	273.3	66.0	N-19°-W	不詳	
9 SA05	SK	40	63.5	49.8	46.0	N-16°-E	Ⅱ期	下位ビット SP223 礎石
9	SK	41	(85.3)	(21.5)	(19.5)	N-8°-E	Ⅱ期	
9	SK	42	67.7	(49.1)	22.0	N-78°-E	Ⅱ期	
6	SK	43	(128.3)	(90.6)	27.0	N-31°-W	Ⅱ-Ⅲ期	
12	SK	44	136.8	88.4	49.0	N-5°-E	Ⅱ期	火葬施設

第5表 遺構計測表 (SD)

測量工区	遺構種	遺構No	法量 (cm)			主軸方位	所属時期	出土遺物	
			残存長	長軸	短軸				深さ
10・11	SD	01	(618.3)	49.6	24.8	12.0	N-3°-W	Ⅱ期	カワラケ 皿、土師器 鉢
10・11	SD	02	(628.9)	79.4	36.9	15.0	N-8°-W	Ⅱ期	土師器 付付篋、カワラケ 皿、須恵器 鉢、土師器 鉢
10・11	SD	03	(763.9)	109.6	46.7	26.0	N-15°-W	Ⅱ期	土師器 付付篋、土師器 長形篋、土師器 詳細不明
6・7	SD	04	(624.1)	149.5	75.3	37.0	N-10°-W	Ⅱ期	
3	SD	05	(424.3)	175.4	134.4	34.0	N-65°-E	不明	
6・8	SD	06	(830.2)	(82.4)	30.7	23.0	N-79°-W	Ⅱ期	土師器 皿
5	SD	07	(110.0)	(77.6)	(68.8)	57.0	N-17°-E	Ⅱ期	土師器 付付篋、土師器 甕・鉢・椀
6・7	SD	08	(830.0)	(258)	82.1	24.0	N-18°-E	Ⅱ期	土師器 椀
6・7	SD	09	(759.5)	93.9	75.2	44.0	N-31°-W	Ⅱ期	土師器 詳細不明
8・11	SD	10	(801.4)	101.9	66.4	51.0	N-35°-W	Ⅱ期	須恵器 甕
10・11	SD	11	(611)	49.6	35.1	24.0	N-8°-E	Ⅱ期	須恵器 甕
6・7	SD	12	(776.7)	127.8	73.4	16.0	N-19°-W	Ⅱ期	須恵器 皿

第6表 遺構計測表 (SB)

測量工区	遺構名	平面形 (梁間×長軸)	規模概数値 (m)				所属時期	構成柱穴
			短軸	長軸	梁柱間	柱間		
11・12・13	SB01	2間×2間 方形側柱小隔型	4.3	5.7	4.3～4.5	2.15～2.8	Ⅱ期	SP22.31.41.117.166.167(171).182.193. 196.(197).(198).220.SB07内P
11・14	SB02	7間×3間 (長方形)	2.0	4.4	1.9～2.0	1.0～1.8	Ⅱ期	SP135.148.154.156.159.160.161.162. 163.164.168.178.(208)
9	SB03	1間×1間 方形梁間一隔型	1.3	1.5	1.2～1.3	0.5～1.0	Ⅳ期	37.39.40.45.152.SK12内PSK24内P
9	SB04	2間×3間 長方形	2.0	2.5	1.9	0.5～0.6	Ⅲ期	SP83.90.94.180.183.184.187.192
11	SB05	1間×2間 長方形 梁間一隔型	1.7	3.1	1.8	0.7～1.6	Ⅲ期	SP148.158.165.186.188

第7表 遺構計測表 (SP)

測量工区	遺構種	編	法 量 (cm)			遺構編属	所属時期	備 考
			長 軸	短 軸	深 さ			
14	SP	01	30.0	29.3	14.0		Ⅲ期	
14	SP	02	50.0	39.7	38.0		Ⅲ期	
14	SP	03	35.5	31.2	25.0	SA02	Ⅲ期	
14	SP	04	31.2	24.2	34.0	SA02	Ⅲ期	
14	SP	05	26.2	23.4	57.0	SA11	Ⅳ期	
14	SP	06	31.8	26.2	19.0	SA11	Ⅳ期	
13	SP	07	25.6	22.9	28.0	SA19	Ⅳ期	
14	SP	08	29.4	27.3	44.0	SA11	Ⅳ期	
14	SP	09	34.3	30.1	59.0	SA11	Ⅳ期	組圓め石
13	SP	10	28.7	23.9	48.0	SA12	Ⅳ期	
13	SP	11	25.6	24.9	33.0	SA12	Ⅳ期	組圓め石
13	SP	12	26.9	25.2	19.0		Ⅳ期	板石
13	SP	13	30.0	24.6	45.0	SA17	Ⅳ期	
13	SP	14	30.8	27.4	35.0	SA18	Ⅳ期	組圓め石
13	SP	15	36.0	35.4	33.0	SA18	Ⅳ期	板石
13	SP	16	37.5	31.3	11.0	SA17	Ⅳ期	
14	SP	17	27.5	20.4	24.0	SA03	Ⅲ期	
14	SP	18	19.5	19.0	21.0	SA03	Ⅲ期	
14	SP	19	19.7	17.4	29.0	SA03	Ⅲ期	
13	SP	20	42.5	40.0	36.0	SA17	Ⅳ期	
13	SP	21	39.4	37.9	68.0		Ⅳ期	組圓め石
13	SP	22	(35.6)	(32.0)	15.0	SB01	Ⅲ期	組圓め石
13	SP	23	20.5	17.6	12.0		Ⅳ期	
13	SP	24	(35.1)	(34.1)	13.0		Ⅳ期	
14	SP	25	34.5	33.5	28.0	SA19	Ⅳ期	板石
13	SP	26	24.8	21.6	26.0	SA19	Ⅳ期	
13	SP	27	30.0	27.9	40.0	SA19	Ⅳ期	組圓め石
13	SP	28	28.9	23.1	29.0	SA12	Ⅳ期	
13	SP	29	32.9	32.0	48.0	SA19	Ⅳ期	
13	SP	30	21.6	18.3	45.0	SA11	Ⅳ期	
13	SP	31	31.0	29.8	37.0	SA18	Ⅲ期	
9	SP	32	35.6	32.8	20.0		Ⅳ期	
9	SP	33	25.1	22.4	32.0		Ⅳ期	
4	SP	34	28.5	28.4	15.0	SA06	Ⅲ期	柱板取付編
4	SP	35	35.9	28.7	25.0	SA06	Ⅲ期	柱板取付編
4	SP	36	48.6	40.8	26.0	SA06	Ⅲ期	柱板取付編
9	SP	37	29.4	28.6	38.0	SB03	Ⅳ期	隅柱
11	SP	38	48.9	34.3	21.0		Ⅳ期	
9	SP	39	27.0	24.4	41.0	SB03	Ⅳ期	隅柱
9	SP	40	36.9	28.8	45.0	SB03	Ⅳ期	隅柱
11	SP	41	25.9	25.8	25.0	SB01	Ⅲ期	中柱
4	SP	42	44.1	39.4	22.0	SA06	Ⅲ期	柱板取付編
8	SP	43	39.3	38.8	63.0	SA09	Ⅳ期	
8	SP	44	30.5	29.2	43.0	SA09	Ⅳ期	
9	SP	45	45.3	34.0	40.0	SB03	Ⅳ期	組圓め石・隅柱
9	SP	46	24.4	19.0	29.0		Ⅳ期	板石・中柱
6	SP	47	32.0	28.0	48.0		Ⅳ期	組圓め石
8	SP	48	49.4	44.8	53.0	SA10	Ⅳ期	
9	SP	49	30.5	26.3	39.0		Ⅳ期	
11	SP	50	23.0	21.8	26.0	SD01	Ⅲ期	
11	SP	51	25.5	22.2	13.0	SD01	Ⅲ期	
6	SP	52	30.6	27.8	24.0		Ⅳ期	
8	SP	53	78.3	52.8	60.0	SA09	Ⅳ期	
8	SP	54	65.7	58.5	39.0	SA10	Ⅳ期	
11	SP	55	29.5	25.6	39.0	SD01	Ⅲ期	
6	SP	56	21.8	21.2	27.0		Ⅳ期	
9	SP	57	46.5	39.4	40.0		Ⅲ期	
7	SP	58	27.3	23.8	16.0	SA14	Ⅲ期	
7	SP	59	26.6	21.6	26.0	SA14	Ⅲ期	
6	SP	60	39.8	38.1	17.0		Ⅳ期	
8	SP	61	45.2	42.4	28.0	SA10	Ⅳ期	
8	SP	62	49.7	45.6	51.0	SA09	Ⅳ期	
11	SP	63	30.8	22.5	41.0	SA13	Ⅲ期	

◁ ▷は残存線を示す。

() は現存値を示す。

測量区画	遺構種	No.	法 量 (m)			遺構所属	所属時期	備 考
			長 軸	短 軸	深 さ			
11	SP	64	35.2	31.1	62.0	SA15	Ⅱ期	相同め石
7	SP	65	69.5	45.0	48.0	SD09	Ⅱ期	
7	SP	66	34.1	29.9	44.0	SD09	Ⅱ期	
7	SP	67	45.0	28.6	71.0	SD09	Ⅱ期	
7	SP	68	40.8	37.6	45.0	SD09	Ⅱ期	
6	SP	69	44.6	38.3	27.0	SK39	Ⅳ期	
6	SP	70	53.4	35.5	70.0	SK39	Ⅳ期	
7	SP	71	(33.6)	32.5	24.0	SD04	Ⅱ期	
7	SP	72	26.9	23.1	33.0		Ⅳ期	
7	SP	73	30.1	23.7	10.0		Ⅳ期	
2	SP	74	48.4	(27.1)	24.0			
7	SP	75	38.5	36.0	49.0	SD04	Ⅱ期	相同め石
7	SP	76	32.9	27.1	31.0	SD04	Ⅱ期	
7	SP	77	31.4	22.1	11.0	SD04	Ⅱ期	
7	SP	78	44.3	34.6	58.0	SD04	Ⅱ期	
7	SP	79	24.9	21.0	30.0	SD04	Ⅱ期	
7	SP	80	22.4	19.9	16.0	SA14	Ⅱ期	
3	SP	81	57.6	40.2	27.0	SK38	Ⅳ期	
3	SP	82	20.6	18.8	28.0	SK38	Ⅳ期	
6	SP	83	28.8	27.2	50.0	SB04	Ⅱ期	側柱
9	SP	84	28.3	23.6	33.0		Ⅱ期	
12	SP	85	25.9	24.1	8.0	SD1	Ⅱ期	
12	SP	86	40.0	25.3	45.0	SD1	Ⅱ期	
12	SP	87	28.4	28.3	48.0	SD1	Ⅱ期	
12	SP	88	30.2	24.3	53.0	SD1	Ⅱ期	
12	SP	89	-	-	-	SD1	Ⅱ期	
9	SP	90	28.7	27.9	47.0	SB04	Ⅱ期	中柱
7	SP	91	22.9	18.4	54.0	SD09	Ⅱ期	
7	SP	92	39.3	30.3	42.0	SD09	Ⅱ期	
6	SP	93	48.3	40.0	63.0	SD09	Ⅱ期	
9	SP	94	33.9	30.4	52.0	SB04	Ⅱ期	側柱
7	SP	95	27.3	26.9	54.0	SD04	Ⅱ期	
14	SP	96	24.6	23.2	38.0	SA02	Ⅱ期	
14	SP	97	22.0	20.3	34.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	98	28.9	26.8	20.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	99	24.9	24.3	38.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	100	30.6	30.4	67.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	101	20.9	20.8	24.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	102	28.2	27.0	33.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	103	24.7	20.5	30.0	SB02	Ⅱ期	
9	SP	104	45.2	36.8	67.0		Ⅱ期	
13	SP	105	(70.0)	(23.5)	18.0	SA01	Ⅱ期	
12	SP	106	27.8	21.4	48.0		Ⅳ期	
11	SP	107	12.6	11.6	18.0	SD10	Ⅱ期	
11	SP	108	27	26.3	32.0	SD10	Ⅱ期	
11	SP	109	22.6	20.1	46.0	SD10	Ⅱ期	
12	SP	110	55.3	(23.1)	67.0		Ⅳ期	
12	SP	111	15.3	13.8	28.0	SD1	Ⅱ期	
13	SP	112	16.9	(13.5)	13.0	SA01	Ⅱ期	
14	SP	113	19.8	18.4	28.0	SA01	Ⅱ期	
14	SP	114	18.6	16.4	10.0	SA01	Ⅱ期	
14	SP	115	15.8	14.2	17.0	SA01	Ⅱ期	博士SK08類
12	SP	116	24.1	23.8	64.0	SD1	Ⅱ期	相同め石
12	SP	117	22.8	17.4	32.0	SB01	Ⅱ期	相同め石・側柱
9	SP	118	38.3	35.7	44.0		Ⅱ期	
9	SP	119	40.9	61.0	36.0		Ⅱ期	
8	SP	120	18.4	14.1	27.0	SD10	Ⅱ期	
9	SP	121	63.9	48.2	69.0	SD10	Ⅱ期	
14	SP	122	20.9	17.7	77.0	SA01	Ⅱ期	
14	SP	123	25.8	24.3	48.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	124	19.1	16.5	20.0	SB02	Ⅱ期	
14	SP	125	29.6	26.7	27.0	SB02	Ⅱ期	
4	SP	126	23.0	22.9	30.0	SA07	Ⅱ期	
4	SP	127	23.4	22.8	31.0	SA07	Ⅱ期	側石
4	SP	128	31.7	27.0	28.0	SA07	Ⅱ期	
9	SP	129	45.5	30.4	45.0		Ⅳ期	
8	SP	130	27.8	24.1	45.0	SD10	Ⅱ期	
9	SP	131	33.1	31.3	33.0	SA05	Ⅱ期	側石
9	SP	132	46.4	37.7	46.0		Ⅱ期	側石
6	SP	133	80.8	60.9	64.0		Ⅱ期	
11	SP	134	37.4	(29.3)	73.0		Ⅳ期	
11	SP	135	44.3	32.8	52.0	SB02	Ⅱ期	中柱
6	SP	136	43.8	34.1	44.0	SD4	Ⅱ期	側石
6	SP	137	42.8	40.4	29.0	SD4	Ⅱ期	側石 長方形柱礎 角材
6	SP	138	30.3	25.3	36.0	SD4	Ⅱ期	
6	SP	139	34.6	34.1	45.0	SD4	Ⅱ期	
6	SP	140	37.7	30.0	53.0	SD4	Ⅱ期	
6	SP	141	34.3	33.8	55.0	SD4	Ⅱ期	長方形柱礎 角材
6	SP	142	37.6	31.5	34.0	SD4	Ⅱ期	
6	SP	143	(39.7)	21.7	31.0	SD4	Ⅱ期	長方形柱礎 角材

〈 〉 以現在值を示す。

測望工区	遺構種	No	法 量 (m)			遺構材質	築成時期	備 考
			長 軸	短 軸	深 さ			
6	SP	144	35.8	26.6	50.0	S304	Ⅱ期	礎岡砂石 長方形柱礎 角材
6	SP	145	22.4	18.8	58.0	S304	Ⅱ期	
6	SP	146	30.7	26.9	42.0	S304	Ⅱ期	長方形柱礎 角材
6	SP	147	28.2	18.8	36.0	S304	Ⅱ期	長方形柱礎 角材
11	SP	148	64.4	(36.3)	48.0	S302	Ⅱ期	側柱
11	SP	149	45.3	21.3	15.0		Ⅱ期	
11	SP	150	28.6	22.8	34.0	SA15	Ⅱ期	
11	SP	151	34.8	27.9	45.0	SA13	Ⅱ期	礎石
9	SP	152	39.4	37.4	38.0	S303	Ⅳ期	側柱
11	SP	153	32.1	42.7	55.0		Ⅳ期	
11	SP	154	49.8	31.2	14.0	S302	Ⅱ期	
11	SP	155	53.4	41.3	15.0		Ⅱ期	礎岡砂石
11	SP	156	57.5	24.3	20.0	S302	Ⅱ期	礎岡砂石 中柱
11	SP	157	45.9	35.0	21.0		Ⅱ期	礎石
11	SP	158	29.1	24.6	25.0	S305	Ⅱ期	側柱
11	SP	159	34.0	24.4	8.0	S302	Ⅱ期	側柱
11	SP	160	29.2	26.7	12.0	S302	Ⅱ期	中柱
14	SP	161	30.6	26.6	37.0	S302	Ⅱ期	礎岡砂石 側柱
11	SP	162	32.5	29.1	21.0	S302	Ⅱ期	中柱
14	SP	163	36.1	30.2	30.0	S302	Ⅱ期	礎柱
11	SP	164	46.2	37.7	37.0	S302	Ⅱ期	礎柱
11	SP	165	45.5	44.9	48.0	S305	Ⅱ期	礎柱
11	SP	166	45.2	36.0	54.0	S301	Ⅱ期	礎石・側柱
11	SP	167	61.8	47.8	47.8	S301	Ⅱ期	
11	SP	168	55.5	53.6	56.0	S302	Ⅱ期	側柱
13	SP	169	32.7	29.7	31.0		Ⅱ期	礎石・礎柱
13	SP	170	18.8	18.3	10.0		Ⅱ期	
11	SP	171	55.2	43.8	24.0	S301	Ⅱ期	
13	SP	172	28.5	18.2	25.0	SA16	Ⅱ期	礎石
13	SP	173	19.3	18.5	32.0	SA16	Ⅱ期	
13	SP	174	30.7	28.3	45.0	SA16	Ⅱ期	
13	SP	175	26.9	25.6	51.0	SA04	Ⅱ期	
13	SP	176	35.1	(32.3)	20.0		Ⅱ期	
11	SP	177	33.6	29.2	21.0	SD10	Ⅱ期	
11	SP	178	46.4	38.8	21.0	S302	Ⅱ期	側柱
4	SP	179	33.2	30.0	36.0	S303	Ⅱ期	
6	SP	180	30.1	28.0	40.0	S304	Ⅱ期	中柱
7	SP	181	28.6	25.9	28.0		Ⅱ期	
11	SP	182	27.4	25.7	39.0	S301	Ⅱ期	側柱
9	SP	183	22.6	21.0	23.0	S304	Ⅱ期	礎柱
9	SP	184	30.6	27.7	24.0	S304	Ⅱ期	側柱
9	SP	185	66.9	47.0	56.0	SA05	Ⅱ期	礎石
11	SP	186	37.6	24.7	27.0	S305	Ⅱ期	礎柱
9	SP	187	(61.5)	53.1	66.0	S304	Ⅱ期	礎石・側柱
9	SP	188	27.2	23.7	25.0	S305	Ⅱ期	側柱
9	SP	189	21.5	20.5	39.0	SA08	Ⅱ期	
9	SP	190	23.9	19.4	24.0	SA08	Ⅱ期	礎石
9	SP	191	(57.7)	(56.7)	65.0	SA05	Ⅱ期	
9	SP	192	55.4	32.8	68.0	S304	Ⅱ期	礎柱
13	SP	193	42.6	36.9	52.0	S301	Ⅱ期	側柱
13	SP	194	22.0	19.5	10.0		Ⅱ期	
13	SP	195	28.4	29.7	22.0		Ⅱ期	
11	SP	196	35.0	27.6	19.0	S301	Ⅱ期	礎石
11	SP	197	27.1	24.7	48.0	S301	Ⅱ期	
11	SP	198	24.9	22.4	22.0	S301	Ⅱ期	礎石・礎岡砂石
13	SP	199	32.1	(22.5)	11.0	SA16	Ⅱ期	
13	SP	200	33.2	(22.0)	12.0	SA04	Ⅱ期	
4	SP	201	28.0	25.4	24.0	SA07	Ⅱ期	礎岡砂石
8	SP	202	30.0	29.1	35.0		Ⅱ期	西TR内
1	SP	203	42.2	30.3	36.0		Ⅱ期-Ⅳ期	礎石
9	SP	204	23.2	20.0	27.0	SA08	Ⅱ期	
12	SP	205	32.3	28.2	14.0	S301	Ⅱ期	
12	SP	206	22.3	22.2	10.0	S301	Ⅱ期	
13	SP	207	(30.3)	33.6	31.0	SA04	Ⅱ期	
11	SP	208	(71.7)	46.0	14.0	S302	Ⅱ期	礎岡砂石
7	SP	209	34.2	27.7	39.0	SD12	Ⅱ期	
13	SP	210	29.5	27.1	6.0	SA04	Ⅱ期	
11	SP	211	(31.2)	(9.8)	16.0		Ⅱ期	
6	SP	212	34.5	26.9	68.0		Ⅱ期	
11	SP	213	25.8	18.9	17.0		Ⅱ期	
9	SP	214	41.9	(35.2)	58.0	SD10	Ⅱ期	
9	SP	215	21.4	17.9	19.0	SD10	Ⅱ期	
9	SP	216	17.7	14.6	39.0	SD10	Ⅱ期	
8	SP	217	23.8	19.1	38.0	SD10	Ⅱ期	
8	SP	218	13.6	12.2	38.0	SD10	Ⅱ期	
8	SP	219	23.6	15.5	62.0	SD10	Ⅱ期	
12	SP	220	25.3	20.8	23.0	S301	Ⅱ期	側柱
9	SP	221	28.2	13.9	55.0	SD10	Ⅱ期	
13	SP	222	35.8	33.1	51.0		Ⅱ期	
9	SP	223	(35.7)	(22.8)	64.0	SA05	Ⅱ期	礎石 SK40 十字柱穴

第V章 自然科学分析

1. はじめに

北関東地方西部の高崎市域には、榛名や浅間などの火山から噴出したテフラ（tephra, 火山砕屑物あるいは火砕物のこと）が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（たとえば町田・新井, 2011）などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の層位や年代などに関する情報が得られるようになっている。

高崎市倉賀野葉師前遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な遺構や土層が検出されたことから、地質調査を実施して、土層層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内においてテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出同定を実施した。調査分析のおもな対象はSD07 覆土断面である。

2. 調査分析地点の土層層序

発掘調査の成果から中世の堀の可能性が指摘されているSD07の覆土断面では、下位より垂円礫を含む暗灰褐色粘質土（層厚9cm, 礫の最大径31mm）、やや暗い灰褐色粘質土（層厚9cm）、橙褐色土ブロック混じりで色調がとくに暗い暗灰褐色粘質土（層厚23cm）、盛土（層厚60cm）が認められた（図1）。このうち、盛土は、下位より黄灰色泥流堆積物ブロックを多く含む垂円礫混じり暗灰色粘質土（層厚20cm, 礫の最大径103mm）、黄灰色泥流堆積物ブロックを少し含む暗灰褐色土（層厚27cm）、垂円礫やビニール片を含む褐色土（層厚13cm）からなる。

3. テフラ分析（テフラ検出分析）

（1）分析試料と分析方法

SD07 覆土断面から高純度で採取した試料7点を対象に、比較的粗粒のテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出同定を実施した。分析は、1）砂分の含有率に応じて3～7gを電子天秤で秤量、2）超音波洗浄装置による泥分除去、3）恒温乾燥器による恒温乾燥（80℃）、4）実体顕微鏡下での観察の手順で実施した。

（2）分析結果

テフラ検出分析では、淡灰色の分厚い中間型ガラス（テフラ1）、スポンジ状に比較的良く発砲した淡灰色軽石（最大径2mm）や、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状繊維束状軽石型ガラス（テフラ2）、スポンジ状あるいは細かく繊維束状に発泡したやや灰色がかった白色の軽石（最大径2.8mm）およびそれらの細粒物である軽石型ガラス（テフラ3）を検出できた（表1）。これらのうち、テフラ1は試料11～3で、またテフラ2はいずれの試料でも認められた。テフラ3は、試料3以上で認められ、試料3にやや多く含まれる。いずれの試料でも、重鉱物には斜方輝石および単斜輝石が多く、わずかに角閃石が認められる試料もある。

4. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ1は、その特徴から、おそらく本遺跡の基盤となっていて、盛土中にブロック状に認められる高崎泥流堆積物（たとえば中村, 2004）に含まれる浅間火山軽石流期（荒牧, 1968）のテフラの可能性が高い。高崎泥流堆積物は、井野川低地帯を埋めている井野川泥流堆積物（約1.4万年前、早田, 1990、早田・下岡, 2023など）と同じ堆積物とも考えられているが（吉田・笠原, 2016）、その詳細は不明である。テフラ2と、産状から試料3付近に降灰層準があってテフラ3は、岩相などから、1108（天仁元）年の浅間B

テフラ (As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 町田・新井, 2011 など) と、1783 (天明3) 年の浅間A軽石 (As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 町田・新井, 2011 など) と考えられる。なお、多くの試料でわずかに検出された角閃石および一部の斜方輝石に関しては、古墳時代の種名系テフラに由来する可能性がある。

以上のことから、As-B の自然流失あるいは人為的除去がないかぎり、SD07 の層位は、As-B 降灰より上位で、As-A より下位と考えられる。このことは発掘調査で可能性が指摘された中世の年代と矛盾しない。

5. まとめ

高崎市倉賀野菜師前遺跡における発掘調査で検出された塚状遺構 (SD07) について、火山灰編年学的調査分析 (地質調査・テフラ検出分析) を実施した。その結果、SD07 の層位は浅間Bテフラ (As-B, 1108年) より上位で、浅間A軽石 (As-A, 1783年) より下位と考えられる。

文献

- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層, 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質, 地団研専報, no.14, p.1-45.
 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2刷)」, 東京大学出版会, 336p.
 中村正芳 (2004) 高崎の台地をつくる地層, 高崎市史編さん室編「新編高崎市史通史編1 原始古代」, p.73-101.
 早田 勉 (1990) 群馬県自然と風土, 群馬県史編さん室編「群馬県史通史編1 原始古代1」, p.37-129.
 早田 勉・下岡順直 (2023) 北関東地方西部における後期更新世末～完新世初頭の地変と環境変化, 岩宿博物館・岩宿フォーラム編「岩宿フォーラム 2023 シンポジウム予集」, p.14-28.
 吉田英嗣・笠原友生 (2016) 関東平野北西部, 高崎台地から井野川低地帯にかけての地下地質, 地学雑, 125, p.763-773.

表1 テフラ検出分析結果

試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
1	(*)	(灰) 白	2.3mm	**	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 褐, (灰) 白	opx, cpx, (am)
2	(*)	(灰) 白	2.8mm	**	pm (sp, fb)	淡灰, 淡褐, (灰) 白	opx, cpx, (am)
3	*	(灰) 白	2.3mm	**	pm (sp), md	(灰) 白, 淡灰	opx, cpx, (am)
5	(*)	淡灰	2.0mm	*	md, pm (sp)	淡灰, 淡褐	opx, cpx
7				*	md, pm (sp)	淡灰, 淡褐	opx, cpx, (am)
9				*	md, pm (sp)	淡灰, 淡褐	opx, cpx
11				**	md, pm (sp)	淡灰, 淡褐	opx, cpx, (am)

** : 中程度, * : 少ない, (*) : とくに少ない, pm : 軽石型, md : 中間型, fb : 繊維束状, sp : スポンジ状
 opx : 斜方輝石, cpx : 単斜輝石, am : 角閃石, 重鉱物の () は量が少ないことを示す。



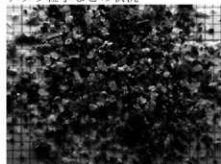
図1 SD07 覆土断面の土層柱状図 ● : テフラ分析試料の層位, 数字 : テフラ分析の試料番号。

地質調査・試料採取状況

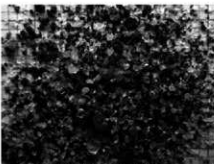


調査分析対象断面 (試料採取状況)

テフラ粒子などの状況



試料3 (As-A・As-B混在)



試料11 (As-B混在)

第VI章 総括

検出された遺構の概要 本調査では、古墳時代前期と中近世の遺構が検出されたが、これらを出土した遺物と、遺構の重複関係により分類すると、Ⅰ期：古墳時代前期、Ⅱ期：中世Ⅰ期、Ⅲ期：中世Ⅱ期、Ⅳ期：中世Ⅲ期、Ⅴ期：近世の5期区分できる。各期の検出遺構の内容としては、Ⅰ期は住居跡1棟で、焼失住居跡の可能性が高く、出土遺物にはS字口縁の台付甕、底部焼成後穿孔を持つ壺、高坏、焼成前穿孔部を有する器台、埴、有段口縁の畿内型壺が出土し、可能な限り図化した。当該期の遺構はこれのみで、調査区南西端において検出された。

Ⅱ期～Ⅳ期は中世に所産期を置いた。倉賀野氏が館をこの地に構え、館を改修し倉賀野城を築城した時期と合致することより、Ⅱ～Ⅳ期は、山崎一氏が想定した「倉賀野西城」(図1)との関係を積極的に求められようである。遺構種には、井戸跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、柵列、柱穴、土坑がある。柱穴の特徴としては、1類：上位に土坑を有し、その下位に小さな円形プランを持つ落ち込みが続き、底面平坦あるいは根石を持つ深い小穴になるか、覆土断面に柱痕を分層できたことに拠り「柱穴」を想定し得たもの、2類：検出当初より小穴の平面プランと断面形を呈するもの、の2種が存在した。

土坑には1類：大型で整った略方形を呈するもの(SK38・39)、2類：楕円形プランを有するもの、3類：茶毘跡・火葬土坑と呼ばれる火葬施設(SK01・44)の3分類できた。1類の土坑は底面平坦でSK38が最深74cm、SK39が66cmと深く、明らかにほかの土坑とは画され、天井部は遺されていなかったものの地下式土坑をも想定しうる形状を呈している。

Ⅴ期は、長崎貿易銭の祥符通宝を出土する土坑SK02のみで、出土遺物より近世としたものである。形状はⅣ期の土坑群と近似しており、Ⅳ期とした土坑の中にも遺物が確認できなかっただけで、Ⅴ期近世に帰属するものがあるかもしれないことを付記しておきたい。

倉賀野西城としての景観 (図2) 調査区は、倉賀野城の支城とされる倉賀野西城(以下、「西城」と略)の可能性を持つ包蔵地であるが、隣接する養宝寺門末倉賀野六か寺のうち、唯一現存する高野山真言宗林西寺のある場所から南が西城とされているものの、これまでその詳細は不明であった。調査区域に南接する林西寺とその墓地の北側を通る高崎市道を西城の郭とする説は固定化しているが、西に接する現用水路について、西城の郭と考える研究者も居り、当調査区域を西城範囲と考える論拠とされてもいた。今回の調査では、トレンチ調査を行った結果、溝跡と考えられる遺構(SD07)を検出するに至り、その時期は土壌分析より中世に所産期を求められようである(第Ⅴ章参照)。トレンチ調査ではあるが、調査区に西接する現用水路を西城の外郭と考えることの可能性を高める結果となった。拠って、西城としての可能性を踏まえながら、以下にⅡ～Ⅳ期中世の遺構を概観しておきたい。

倉賀野素師前Ⅱ期(中世Ⅰ期)の遺構群

調査区東寄りのSA01・02・03・04、中央部で平坦で立派な根石を備えたSA05、西寄りのSA06、北寄りにL字に配するSA07柵列、調査区北東端に位置するSK44、溝跡に切られた柵列内付近に位置するSB01・02掘立柱建物跡2棟、調査区ほぼ中央に位置するSE01井戸跡、SD04溝跡に切られる重複関係のS104竪穴建物跡、そして外郭を思わせる西端の現用水路に当たるSD07溝跡遺構で構成される。S104竪穴建物跡は平面整った長方形を呈し、壁に食い込む位置で柱穴が廻り、前述したように割材を使用した可能性が窺える(第Ⅳ章参照)。柵列、掘立柱建物



図1 倉賀野西城縄張り想定図
(『高崎市史 歴史編』より)

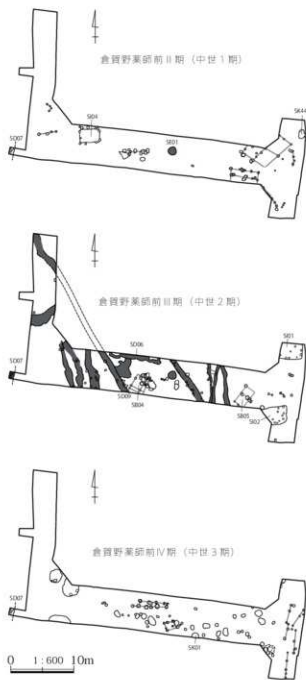


図2 倉賀野薬師前遺跡中世変遷期

された可能性が高い。所産期は、15～16Cに求められることより、倉賀野城築城期・林西寺開基の時期を経て、墓域としての役割を定着させていたものと考えられる。

倉賀野薬師前遺跡の役割としての景観

以上、遺構の重複関係・出土遺物・遺構覆土種別により、倉賀野薬師前遺跡より検出された遺構を古墳時代前期初頭・中世・近世の3期区分し更に中世を3期に細分し、それぞれの主だった概要について触れた。当遺跡は、平安時代末～中世初頭に兄玉党支流秩父高俊がこの地に館を構え、倉賀野高俊が倉賀野神社を造営し、倉賀野光行が館を改修し倉賀野城を築城した頃から林西寺が法印傳和尚により開基されたのち、河越の夜戦で倉賀野城主行正が討死した頃に倉賀野薬師前Ⅱ期(中世1期)が始まったと考えられる。その後、倉賀野城に内部分裂や武田氏配下時代頃に、井戸の位置を侵すことなく多くの溝を構築した倉賀野薬師前Ⅲ期(中世2期)が当たり、倉賀野城降伏開城に向かい、溝を埋めて倉賀野薬師前Ⅳ期(中世3期)の墓域として姿を変えていったと考

跡の様相から簡易的な建物と境界であった可能性がある。

倉賀野薬師前Ⅲ期(中世2期)の遺構群

火葬施設SK44を切り、床面より「元祐通宝」を出土するSI01 竪穴建物跡、平面形および床面状況が類似し、南北に対峙するかのよう位置するSI02 竪穴建物跡、調査区中央部に井戸跡を避けながら構築され、南北及び北西から南東に軸を振って走る8本の溝跡、調査区域北側からの細い溝を受けながら東西に短く終結するSD06、そこから溢れ出した水がSD09に流れ込んだ自然流路のSD08、三方向を溝跡に囲まれた位置に在るSB04 掘立柱建物跡、東端の溝跡の外側に位置するSB05 掘立柱建物跡とわずかな土坑で構成される。SI01とSK44の重複関係より、本時期は中世火葬施設を遡らず元祐通宝の鋳造時期以降で、溝跡を切る遺構より出土したカワラケ皿の特徴などから、15C代を下らないと考えられる。

倉賀野薬師前Ⅳ期(中世3期)の遺構群

調査区域の東端に、南北方向に軸を取り屈折しながら並行する柵列、中央部の溝跡に後出する重複関係を持ちながら点在する土坑群のエリア、東西に並走する柱穴列、調査区西側寄りの竪穴建物跡で構成される。土坑の中にはSK01 火葬施設があり、人骨粉骨が出土している。土坑群には遺構確認面より5cmほど掘り下げた深さで河原石と垂円礫が1個から数個据えられており、土坑の床面付近に集石を施すものもあった。出土遺物にはSK25土坑より5枚束ねられている状況で、北宋銭が壁面に張り付くように出土しており、判読できた三枚は「嘉祐元寶・元祐通寶・開元通寶」であった。いずれも8～11Cの鋳銭ではあるが、遺構の重複関係よりⅣ期に所産期を置いた。本時期の遺構から出土する遺物の出土状況やそれらと近似する形状や、前期の溝跡との重複関係を鑑みて、墓域として再編

えられる。井戸は大量の集石により封じ込められていたが、出土遺物には近世以降のものは皆無であることより、中世の溝の位置を意識し得る段階でその役割を終えたと考えられる。

参考文献

- 1970 群馬県文化事業振興会『群馬県史料集』別巻(1) 古城誌編
 1987 浅野晴樹「関東地方における中世在地系土器について」『中近世土器の基礎研究Ⅲ』日本中世土器研究会
 1988 群馬県教育委員会事務局文化財保護課『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会
 1993 高崎市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編14 社寺』高崎市
 1994 高崎市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編4 中世Ⅱ』高崎市
 1994 群馬県姓氏家系大辞典編纂委員会『群馬県姓氏家系大辞典』角川書店
 1996 高崎市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
 1989 木津博明「上野国に於ける在地生産土器に就いて—上野国分館寺・尼寺中間地域を中心にして—」『中近世土器の基礎研究Ⅴ』日本中世土器研究会
 1998 伊藤近富「中世前期の京都系土器器皿の伝播と受容」『中近世土器の基礎研究ⅩⅢ』日本中世土器研究会
 2000 東海考古学フォーラム三重大会実行委員会『S字鬚を考ふる その成立と拡散波及と定着解体』
 2000 高崎市史編さん委員会『新編 高崎市史 通史編2 中世』高崎市
 2000 〈地域〉群馬県『中近世土器の基礎研究ⅩⅤ』日本中世土器研究会
 2004 田中信「関東における在地下土器食器」『中近世土器の基礎研究ⅩⅧ』日本中世土器研究会
 2005 松岡有希子「9. 火葬土坑」「下野田遺跡Ⅱ」(第3分冊)財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団
 2012 宇留野主税「中世在地の土器生産と城館・都市研究—関東地方における研究課題と視点—」『中近世土器の基礎研究24』日本中世土器研究会
 2018 田中浩江編『辻字宮地第1遺跡』埼玉県川口市教育委員会・株式会社東京航業研究所

表1 倉賀野築師前遺跡 中近世相関略年表

遺跡時期区分	主な遺構	倉賀野城ほか関連できごと(参考)		備考
		治承4年(1176)	兒玉党支流秩父高俊が倉賀野に館を構える 倉賀野高俊 源頼朝に従う	1185 壇ノ浦の戦い 鎌倉幕府成立
		建長5年(1253)	倉賀野高俊 倉賀野神社社殿造営	
Ⅱ期 (中世1期)	権列・井戸跡 掘立柱建物跡・ 溝跡	応永年間 (1394～1428)	兒玉党倉賀野光行 倉賀野館を改修し倉賀野城を築城(貫輪城支城) 倉賀野城主 倉賀野光行	上杉氏配下時代 1333 建武の新政(後醍醐天皇) 1392 南北朝の統一 1467 応仁の乱勃発
		永正13年(1516)	倉賀野十六騎衆上着 林西寺 法印傳和尚により開基	
Ⅲ期 (中世2期)	火葬施設SK44 溝跡遺構 聚穴建物跡	天文15年(1546)	倉賀野城主商行 川越の戦いで討死 倉賀野城主商行が倉賀野十六騎と城を守る	倉賀野城内部分裂 武田信玄 vs 北条氏康
		永禄2年(1559)	金井淡路の守秀景 武田信玄に仕える	
		永禄3年(1560)	後北条氏が倉賀野城を拠点支配	
		永禄4年(1561)	倉賀野城主商行 上杉方に付く	
Ⅳ期 (中世3期)	火葬施設SK01 墓坑群	永禄6年(1563)	武田信玄 倉賀野城攻めのため対岸木部城に陣	大俣氏 倉賀野城在城 武田氏配下時代 永禄10(1567) 信州津城信直が貫輪城に在城 1568 織田信長上洛 1573 室町幕府滅亡 倉賀野宿:日に馬3疋伝馬 1582 本能寺の変 1587 惣無事令(私戦禁止令)を関東奥羽地方に制定 1590 豊臣秀吉による小田原征伐 小田原城落城
		永禄7年(1564)	倉賀野城 武田信玄の手に	
		永禄8年(1565)	倉賀野城落城	
		永禄9年(1566)	武田信玄 貫輪城長野業盛を滅ぼす 金井秀景倉賀野城主となり倉賀野秀景と名乗る	
		永禄11年(1569)	甲州勢 倉賀野在陣退散	
		天正10年(1582)	武田氏滅亡 倉賀野秀景は滝沢一益に従う 本能寺の変 倉賀野秀景は北条氏直に仕える	
	天正18年(1590)	倉賀野秀景が後北条氏を武將として小田原城に籠城 倉賀野城は豊臣勢の侵攻で落城 小田原城落城とともに倉賀野城降伏・開城 倉賀野城廃城となる		
Ⅴ期 (近世)	墓坑	万治年間2年以降	長崎貿易銭(SK02)	倉賀野宿時代

報告書抄録

ふりがな	くらのがやくしまえいせき							
署名	倉賀野薬師前遺跡							
副書名	建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第506集							
編著者名	田中浩江 清水 豊							
編集機関	株式会社 測 研							
(連絡先)	〒370-3517 群馬県高崎市引間町712-2 ℡027-372-6464							
発行年月日	西暦2024年(令和6年)5月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
倉賀野薬師前遺跡	群馬県高崎市倉賀野町 字薬師前 806-1、806-2	10202	882	36°17'17"	139°02'22"	2023.11.06 ～ 2023.12.22	445.9㎡	建売分譲住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
倉賀野薬師前遺跡	集落	古墳時代	竪穴住居跡	古式土師器	倉賀野城の支城の可能性のある区域の調査をした。中世の井戸跡・溝跡・掘立柱建物跡・竪穴建物跡などの館や城郭を想定しうる遺構の検出があった。また、火葬施設・墓坑群の検出もあった。			
	屋敷・城郭	中世	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 井戸跡 溝跡 土坑 柵列 小穴	土師器 須恵器 陶磁器 古銭				
	墓域	中世・近世	火葬施設 墓坑					
要 約								
<p>倉賀野城の外壁の一つである倉賀野西城(支城)としての可能性も考えられた調査区であったが、古墳時代前期初頭の住居跡1棟と、中世の溝跡遺構12本、井戸跡遺構1基、竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡5棟、土坑40基、柱穴223基が検出された。これらの中世に所産期を求められる遺構は、3時期に分けられ、近世としては長崎貿易銭を出土する土坑が1基検出された。中世の遺構はすべて15～16世紀に帰属し、倉賀野城が築城されてより、倉賀野城内部分裂時代・武田氏配下時代・後北条氏配下時代を経て倉賀野城降伏・廃城に至るまでに、柵列・竪穴建物跡・掘立柱建物跡により構成される段階、多くの溝跡・竪穴建物跡・掘立柱建物跡により構成される段階、溝を埋めて柱を抜き墓坑群となる段階を追うことができた。部分発掘ではあるものの、倉賀野西城としての可能性を積極的に求め得ることのできる遺跡である。</p>								

写真図版



調査地から赤城山を臨む（南西から）



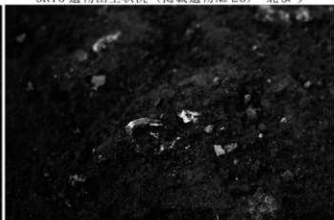
SI03・04・05・SK38・SK39 南より



SK16 遺物出土状況 (掲載遺物No.26) 北より



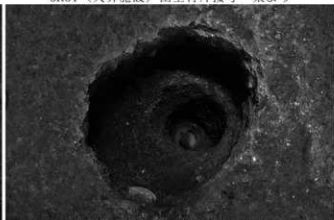
SK25 銭東出土状況 (掲載遺物No.33・34・35) 東より



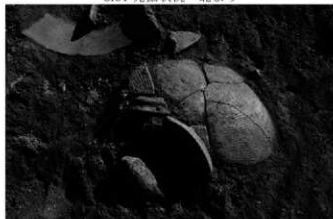
SK01 (火葬施設) 出土骨片接写 東より



SI01 完掘状況 北より



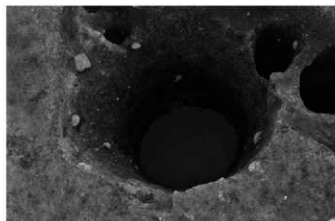
SI01内SP88底面カワラケ出土状況(掲載遺物No.1)南より



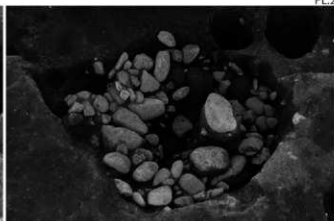
SI03 遺物出土状況 (掲載遺物No.20) 北より



SK09 遺物出土状況 (掲載遺物No.25) 東より



SE01(井戸跡) 貯水状況 北より



SE01(井戸跡) 集石状況 北より



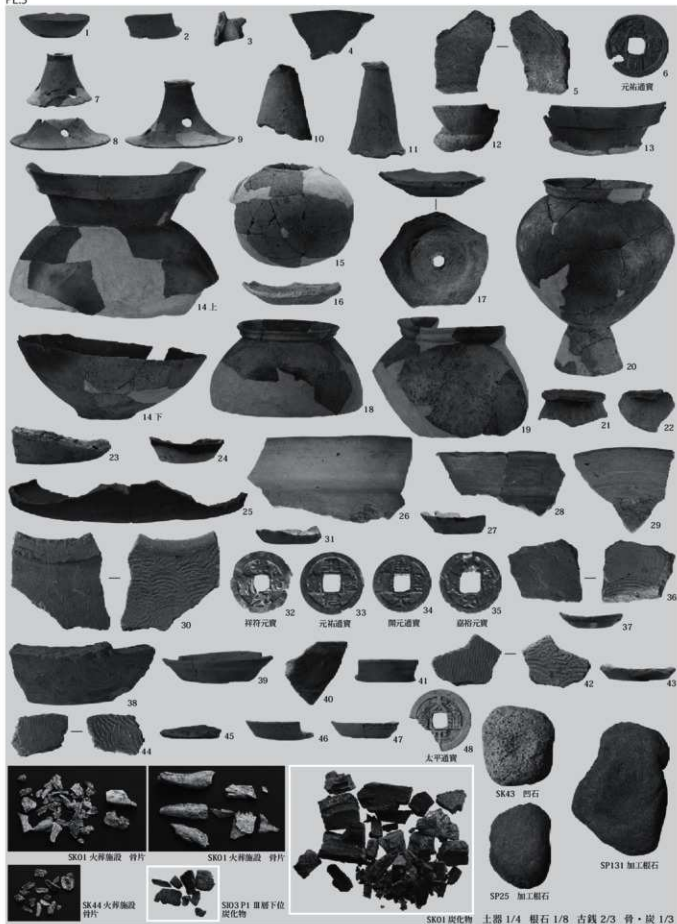
SE01(井戸跡) 切断状況 南より



SI05 完掘状況 北より



SD01・11 完掘状況 北より



出土遺物

土器 1/4 粗石 1/8 古銭 2/3 骨・炭 1/3

高崎市文化財調査報告書第506集

倉賀野葉師前遺跡

—建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2024年5月9日印刷

2024年5月21日発行

発行 株式会社横尾材木店

高崎市教育委員会

株式会社 測研

印刷 上毎印刷工業株式会社
